

第16回
全国高校生金融経済クイズ選手権
エコノミクス甲子園
実施報告書



認定NPO法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy



概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

エコノミクス甲子園はこんな大会です！・・ P. 3

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

各地方大会概要・全国大会参加者感想・・・ P. 8

全国大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 78

参加者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 81

メディア掲載実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 82

事前学習教材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 83

協賛社紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 84

Special Thanks・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 85

リーダー挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 88

エコノミクス甲子園の歩み・・・・・・・・・・・・ P. 90

歴代全体写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 95





名称 第16回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園
 趣旨 社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金のかかわり方を考える力=「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。
 期日 ・募集開始 2021年8月15日
 ・地方大会 2021年11月14日～12月19日 全34大会(インターネット大会含む)
 ・全国大会 2022年2月26日～27日
 主催 ・地方大会主催 各地の金融機関有志
 ・全国大会主催 認定NPO法人 金融知力普及協会

プラチナ
スポンサー



ゴールド
スポンサー



Wiennomori Corporation



エム・シー通商株式会社

ブロンズ
スポンサー



後援

文部科学省 環境省 金融庁 消費者庁
 金融広報中央委員会



地方大会主催



協力



1

ポスターや学校の先生に教えられて
出場を決意！

- ・公式 Web サイトから応募
- ・参加は無料！



2

金融知力普及協会から送られてくる
事前学習教材で経済を勉強

- ・18歳までに学ぶ 契約の知恵・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・これであなたもひとり立ち・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・大学生のための人生とお金の知恵・・・寄贈：金融広報中央委員会
- ・マナブとメグミのお金のキホン BOOK・・・寄贈：全国銀行協会
- ・明るい未来へ TRY！～リスクと備え～・・・寄贈：日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ・・・寄贈：日本証券業協会
- ・ほけんのキホン・・・寄贈：生命保険文化センター
- ・もっと知りたい税のこと・・・寄贈：財務省
- ・今日から始められるかんたん不動産投資 初めてのJリート・・・寄贈：不動産証券化協会
- ・基礎から学べる金融ガイド・・・寄贈：金融庁
- ・わかりやすい投資信託ガイド 2021年版・・・寄贈：投資信託協会
- ・わかりやすいリートガイド 2021年版・・・寄贈：投資信託協会
- ・前払式支払手段ご利用者のみなさまへ・・・寄贈：日本資金決済業協会
- ・進学にかかるお金と奨学金の話・・・寄贈：日本FP協会
- ・10代から学ぶパーソナルファイナンス・・・寄贈：日本FP協会
- ・少額短期保険ガイドブック・・・寄贈：日本少額短期保険協会
- ・社会への扉・・・寄贈：消費者庁
- ・持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則・・・寄贈：環境省
- ・今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎・・・作成：金融知力普及協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の基礎知識や地元経済などについて出題
- ・筆記問題(50問)と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
- ・オンライン大会では4択クイズ(50問)で正確さと早さを競う
- ・一部オンライン大会では小論文クイズを実施
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場





日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供！
将来の日本をリードする人材の育成！



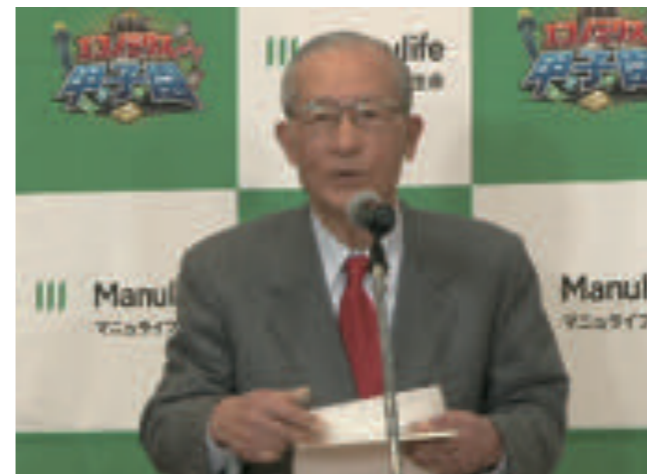
優勝チームはニューヨーク・ボストン研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや経済に関する様々な場所を見学



全国大会に参加

- ・経済用語についての深い知識を問われるオンライン早押し4択クイズのほかオンライン上で他チームと交渉するラウンドなど、より深い知識や理解が求められる様々なルールのクイズに挑む



認定 NPO 法人金融知力普及協会
理事長
金子 昌資

2006 年度より実施しております全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園もこのたび第 16 回大会を無事終えることができました。これまでこの大会を作り上げてきた、延べ 2 万人を超える参加者の皆様、地方大会を主催した金融機関の皆様、さまざまご支援をいただいた協賛・協力企業の皆様、後援をいただいた文部科学省、環境省、金融庁、消費者庁、金融広報中央委員会、国際金融公社の皆様、そして様々な形でこの大会に関わった全ての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

第 1 回大会は全国 3 か所での地方大会、25 校 99 名の参加者から始まったこの大会も、ネットを含め 34 の地方大会、316 校 1372 名の参加者を得るところまで成長しました。現在の教育課程では金融経済の知識についてなかなか学ぶ機会がありません。しかしながら、よりよい人生を築くためには必須の知識であると考えております。これを楽しみながら身につける機会を提供することの価値を多くの方に認めて頂いているからこそ、現状のように成功できていると感じております。

金融経済の知識をつけるということは、投資で濡れ手に粟のもうけを狙うようなものではありません。豊かな人生を送るために、お金という道具の使い方を学ぶことです。このような考え方は最近少しずつ理解を得られてきたと感じておりますが、まだまだ多くの方に伝えていかねばなりません。そのためにもこれまで以上に多くの高校生がこの大会に参加し、金融知力を身につけ、その後の人生に活かし、そして周りの方に広げていっていただければと願っております。

また、第 10 回大会より、全国大会出場者の中から、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要の 200 万円の奨学金を授与しております。金子・森育英奨学基金という名称ですが、奨学生に選ばれた 16 名のうち 10 名と、支援生に選ばれた 12 名のうち 11 名は大学への進学を開始しております。引き続き有為の若者を支援してまいります。

新型コロナウイルスの世界的流行という、未曾有の事態を受け、世界の経済は不透明さを増しております。新卒者の就職活動には多大な影響も出ており、若者への金融経済教育の重要性は今までも増して高まっております。第 17 回大会も全国の高校生のために必ず成功させてまいります。引き続き皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



金融庁
総合政策局総合政策課
金融知力普及係
課長補佐
上大谷 起一 様

金融庁の上大谷と申します。本日は第 16 回全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園でのご挨拶の機会をいただき誠にありがとうございます。

まず、今回参加された皆さんへ惜しみない称賛の言葉をお送りしたいと思います。クイズは勝負の世界なので勝ち負けはあったと思いますが、大人でもそうそう簡単には答えられない数々の問題に果敢に取り組まれたこと自体が非常に素晴らしいことだと思っています。私も過去問を拝見したのですが、正直言って恥をかくだけなので出場しなくてよかったなと思ったレベルの難しさでした。



あの過去問を見て、尚この大会に挑まれた皆さんはとても立派だなと感じました。

今回この大会を通して学ばれた様々な知識は社会、経済、金融全般に及ぶものですが、少し金融に引きつけて話させていただきますと、そうした知識のうち、特に金融と関係が深いものについて、我々金融庁は金融リテラシーという呼び方をしています。我々は金融やお金に関する知識や判断力という意味でこの金融リテラシーを身につけることは自立した豊かな人生を送る上で非常に重要だと考えており、金融庁はその普及のために様々な取り組みを行っています。

ではそもそもなんで金融リテラシーが大事なのかということについてお話いたします。現在人生 100 年時代という言葉にも象徴されますように、少子化が進むと同時にそれぞれの皆さんの生き方は、今後ますます多様化してくると考えられます。結婚するのかもしれないか、子どもをもつのかもたないのか、持ち家なのか持ち家でないのか、会社勤めなのかフリーランスなのか、今まではそこまで人生というのは選択肢がなかったです。かつては普通の人生というものがあったかもしれませんが、今はそれが存在せず、本当に多様化していると思います。こういう多様化した人生の選択肢があるなかで、生涯にわたって自分らしく生きていくためには、皆さん自身で若いうちからお金についてしっかり学んで、お金の管理や計画について行っていくことが重要なので、金融リテラシーが大事という風に考えております。

また、金融とかお金の流れというのは実際の経済や経済社会のなかに位置づけられるものです。金融だけではなくて社会の仕組みをより広く学ぶことで、金融についてもより深く理解することができると思います。そうした意味でお金の仕組みから政治経済、社会まで幅広い知識を得た今回の機会は皆さんの人生において、きっと役に立つのではないかと思います。

その上で少し矛盾するようなことを言いますが、今回皆さんが学んだ知識はいずれそれだけでは確実に通用しなくなるということも過言ではありません。その理由は皆さんは今回基本的には問題に答える側だったと思いますが、これから皆さん大人になっていくにつれて、問題を立てる、問いを立てる側に、皆さんが回っていくと思っています。誰かが与えた答えのある問題ではなく、自らの問題意識をもって課題を発見して、そもそも答えに届かないかもしれない、答えがないかもしれない、そういった不安と戦いながら答えを探していく、そういう問いを立てる、自ら探し

ていくという立場にこれから皆さんはなっていくと思います。そうした時に答えのあるクイズで学んだ知識がそのまま 1 対 1 対応で活かせる、という訳ではないと思います。ただ、今回のエコノミクス甲子園が無駄だったのかというと全然そんなことはなくて、まず、豊富で幅広い知識、今回皆さんが披露していたような知識がなければ新たな答えを導く発想は決して生まれません。あの幅広い知識こそ新しい答え、新たな発想を導くものだと考えています。また今回この大会に向け、皆さん非常に一生懸命にいろいろなことを学んで来られたと思うのですが、そうした一生懸命やった経験は粘り強く今後答えを探していくというときにその忍耐力というも鍛えてくれたのではないかと思います。

そしてクイズ勝負、一瞬のクイズ勝負を競うその度胸、勇気や、知識を共に学んだ仲間というものも今後問いを立てて答えを探していくというところに、そのまま強力な武器になってくれるのではないかと思います。

今回エコノミクス甲子園に参加された皆さんはこの素晴らしい経験を活かしてより一層社会、経済、金融やその他さまざまな分野への学びを深め、その学びを自立した豊かな人生を送る糧としていただければと思っています。

また審査委員や事務局の方々を含め、素晴らしい学びの機会を設けていただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

最後になりますが、本日まで出席の皆様の益々のご健勝とエコノミクス甲子園のさらなる発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



財務省
主税局 総務課兼調査課
企画官
和田 良隆 様

エコノミクス甲子園にご参加の高校生の皆さんこんにちは。財務省主税局の和田と申します。閉会式の挨拶と伺っております。もう結果は出ていると思うのですが、満足いく結果を得た方、それから、少し悔しい思いをされている方、色々だと思いますけれども、まずはですね、是非、一緒に戦ったチームメイトの方、それから、しのぎを削った対戦相手の方々お互いに称え合っていたらと思います。皆さんは、激しい地方大会を勝ち抜いてこられて、この決勝の方に駒を進めてきたと伺っております。そのことだけを以ても素晴らしい戦績だと思いますので、是非自らをですね、誇っていただけたらと思います。

少し私事なんですけれども、私、奈良の東大寺学園の卒業生として、今回母校の後輩の方が、奈良県代表で参加されていると伺っております。本日の時点では分かりませんが、是非良い結果になるように、本日時点で祈っておりますし、是非頑張ってくださいと思います。

せっかくの機会ですので、若い高校生の皆さんに二つお伝えしたいことがありますので、言わせていただけたらと思います。まず一つは、金融経済の知識に関する勉強を是非、これからも継続していただけたらと思っています。皆さんはこのエコノミクス甲子園のために、本当に膨大な資料、事前教材を勉強されて臨まれたと思います。そういった金融経済の知識は、近い将来、皆さんが社会に出て働いていくうえで、必ず必要になる知識だと思います。必ずしも、銀行ですとか、証券会社、保険会社といった金融機関で働く希望がある方だけではなくて、例えばいろんな働き方が

あると思いますけれども、起業して社長になりたいという方はいろんな資金調達が必要だと思います。そのためにはこの金融経済の知識というのが必ず必要になってくると思います。それから例えば、商社に入って、世界を股にかけてビジネスをやってみたいという方は、いろんな外国の経済情勢ですとか、為替市場の動向とか、そういった金融経済の知識が前提になってくると思います。ですので、本当に重要な知識ですので、今後もしっかり勉強していただけたらなと思っています。

二つ目ですが、そういった金融経済に関する知識に関して、そういったものを前提にして、いろんな社会の仕組みですとか、ルールに関して、「このままでいいのかな」とか「もっと良い制度にする必要があるんじゃないか」ということを自ら是非考える習慣を付けていただけたらと思います。財務省が所管している税制に関して例えば例にとってみますと、事前の教材にもありましたが、税制に関しては、公平で中立だということが求められています。ただ、社会の経済情勢というのは刻々と変わっていきますので、何が公平で、何が中立かというのは常に考えていかないといけないことになってきます。ですので、税制というのは、毎年少しずつ、改善、改正がなされている制度になります。なので、必ずしも今回学ばれた金融経済の知識というものが、ルールに関しては、未来永劫凝り固まったものではなくて、皆さんのアイデアで、色々変えていけるものなんだということに是非頭に置いていただけたらと思います。何がより良いルールかということに関しては、今回学ばれた金融経済に関する知識を前提に、是非皆さんの自らの頭で、考えていただくことが、今後より良い日本を作っていくうえで必要なことになると思いますので、是非これからも勉強の方を頑張ってくださいと思います。

本日は、エコノミクス甲子園、本当に、ご参加お疲れ様でございました。引き続き頑張ってくださいと思います。ありがとうございます。





北海道大会 11月14日(日)開催



優勝チーム 北海道旭川東高等学校
「ゴールドロックス」
高橋 空希・笹原 大翔

主催 北海道銀行

参加校一覧

市立札幌開成中等教育学校、北海道遠軽高等学校、北海道苫小牧東高等学校、北海道羽幌高等学校、北海道湧別高等学校、北海道札幌西高等学校、北海道札幌国際情報高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道士別翔雲高等学校、北海道北見北斗高等学校、北海道函館中部高等学校

申し込みチーム数 16チーム (11校)

運営スタッフ感想

北海道大会は、第3回から開催しており本年度で14回目となりました。全道各地から10校13チーム(26名)の高校生が参加しました。オンライン開催となり、参加者の表情や感想を直接確認することはできませんでしたが、教材配布などを通じて金融経済を学ぶ機会を提供する有意義なイベントを、安全に開催することができたことに安堵しております。地域に根ざした金融機関のCSR活動の一つとして、引き続き金融教育普及活動に取り組んで参ります。



北海道大会代表 北海道旭川東高等学校 2年
高橋 空希

私がエコノミクス甲子園で感じたことは多くあるがその中でも特に大きく感じたことは二つある。

一つ目は人とのつながりの素晴らしさだ。旭川はクイズプレイヤー人口が少なく、クイズ大会に参加するためにはオンラインか札幌に行くしかない。しかし、コロナウイルスの影響で札幌に行くことができず、オンラインで参加するしかない。しかし、オンラインの大会はプレイヤー同士の交流がないに等しく、プレイヤーと親睦を深めることができなかった。だからエコノミクス甲子園もオンライン開催と聞いた時、今回も同じようになるのかなと思った。しかし、エコノミクス甲子園は、事前の自己紹介やクイズのおかげで他の参加者と交流することができた。これによっていろんな価値観や物事を知ることができた。

二つ目は妥協しないことの大切さだ。エコノミクス甲子園で出題される問題は出題範囲が経済学や金融学などとても広大な為対策が大変だった。そんな対策の中で度々「こんな知識本当に出るのか」と思ったことがある。しかし、いざ本番になると、そんな妥協しかけた問題がいっぱい出て、もしあの時覚えてなかったかと思うとゾッとした。これからの人生特に、大学受験や試験勉強の時に妥協すると今回のようなことが起きかねないので、妥協をしないようにしていきたい。

他にも、エコノミクス甲子園では金融知力はもちろん全国大会の楽しさなどを知り、楽しむことができた。とても有意義な大会を創っていただいた他の参加者や運営の皆様方に感謝したい。



北海道大会代表 北海道旭川東高等学校 2年
笹原 大翔

エコノミクス甲子園で特に印象に残ったものといえば、事前第一라운드의「ヒント交換クイズ」と本番当日、敗退後のチームが集まる「敗者部屋」である。この2つでは、普段クイズをしていても中々味わえない広く深い交流ができた。ヒント交換クイズでは壮絶な騙し合いが繰り広げられた。旭川東は本戦の対策を第一に据え、事前ラウンドで上位に入ることをほとんど重視していなかったその騙し合いに積極的に関わることはしなかったが、傍目に見ても中々に凄惨な有様だった。正直、本番の空気が心配だったほどだ。しかしその心配はすっかり裏切られた。リハーサルの時点でかなり和やかな雰囲気になり、完全に打ち解けてしまった。当日も皆緊張の中でフェアプレー精神を忘れず、非常に楽しい勝負ができた。特に敗者部屋では、ノーサイドと言わんばかりの盛り上がりっぷりで笑い声が絶えない時間が続いた。全員が全国大会に向けて金融を勉強してきているだけに共有する話題に欠くことは無く、聞くところによると先の騙し合いの頂点たる灘高校による種明かしも大好評だったらしい。大会が終わった後も多くのチーム間で交流が続いている。

思えばこの全国大会、第二ラウンドで敗退してしまい、志望した奨学金も落ちた。身につけた金融の知識も、おそらく大部分は時間と共に忘れてしまうのだろう。相当な勉強をした割に合う結果と言えるかはわからない。しかし、この交流は間違いなく全国大会に出場したからこそ得られたものである。全国にできた友人との交流が続く限り、私は自信を持って「出場して良かった」と言い続けようと思う。





青森大会 12月19日(日)開催

みちのく銀行

準優勝チーム 青森県立青森高等学校
「闘伽棚」
戸沼 龍之介・鎌田 悠生



主催 みちのく銀行

参加校一覧

青森県立青森高等学校、青森県立青森商業高等学校、青森県立野辺地高等学校、青森県立弘前実業高等学校、青森県立大湊高等学校、青森県立十和田西高等学校、青森県立八戸商業高等学校、五所川原第一高等学校

申し込みチーム数 11チーム (8校)

運営スタッフ感想

<青森大会優勝チームへ>

弘前実業高等学校のみなさん、青森大会「優勝」おめでとうございます！

激戦を勝ち抜けたのも念入りな準備の賜物ですね。

金融経済に関する知識は私たちの生活に密接に関係しています。今回勉強したことは今後、絶対役に立つことでしょう。これからも興味を持ち、経済の仕組みを学んでいってください。

<高校生のみなさんへ>

オンラインとなり、門戸が広がった本イベントに参加して、金融リテラシーを高めませんか？

充実した人生が送られるようになりますよ！

※優勝チーム(青森県立弘前実業高等学校「当期純利益」)は全国大会出場辞退のため準優勝チーム(青森県立青森高等学校「闘伽棚」)が全国大会へ出場。

青森大会代表 青森県立青森高等学校 1年

戸沼 龍之介

私がエコノミクス甲子園を知ってから大会の出場をすぐ決めて鎌田を誘いエントリーしました。全国大会出場という目標を決めて部活がない日は学校が終わってから教室で勉強をしました。経済は初めて勉強するジャンルでとても苦労しましたが事前教材に加えて現代社会の教材を使うことで理解しようと努力しました。大会が近くなったら休日も集まり勉強して地方大会を迎えました。

そうして迎えた地方大会。大会の形式上でできるだけ速く解答もしなければいけないけどミスも許される状況ではなくずっと緊張していました。そして結果は1問差で弘前実業さんに負けてしまい私たちの大会は終わったと思っていました。

全国大会1週間前くらいに電話が来て驚きました。1位の高校が辞退したことにより私たちが全国大会に出られると言われました。嬉しさとあと1週間何が出来るか焦りました。エコノミカスの練習や全国大会に向けてエコノミクス甲子園の過去の大会を公式のYouTubeチャンネルから見ると出来ることはやりました。

事前ラウンドは初めてのことで本当に難しかったです。だからこそ高得点をマークした難高校さん達は本当にすごいと思いました。エコノミカ大会では相方のおかげでグループ1位という結果を残せました。

そしてついに迎えた全国大会当日。1回戦で当たった高校のプロフィールを見ると自分たちは本当にこの人たちと戦えるか不安になりました。ですが対策したことがいきで5問中2問正解することが出来ました。私たちにとっては大健闘です。細かいところを見ていけばまだまだ反省しなくてはいけないこともあったけど満足する結果にできました。エコノミクス甲子園を通して思ったのは経済の勉強はここで終わりじゃないなということです。これから生きていく上で「金融知力」が本当に大切なんだと実感しました。これからも世の中で生きていくために学び続けていきたいと思っています。



青森大会代表 青森県立青森高等学校 1年

鎌田 悠生

私がこのエコノミクス甲子園に出ようと思ったきっかけは、友達に誘われたからです。

入学からクイズ研究会に所属はしていましたが当時はあまり大会などに関心がありませんでした。10月頃には大会に出た経験のある同級生もいるようになっていましたが、僕はその経験がありませんでした。そんなとき、今回のパートナーに誘われ、大会にでてみたいという思いとあまり知らない経済について知ることが出来る良い機会だと思い出ることになりました。

出場が決まってから送られてきた教材に驚きました。保険や投資などたくさんの分野に分かれていたからです。それから、二人で放課後学校に残り、大会まで勉強しました。そして地方大会に臨みましたが、残念ながら少しの差で2位になってしまいました。

負けてしまった後、普通に過ごしていると、突然「全国大会にでませんか」というメールが届きました。大会1週間前のことでした。

二人で話し合い出ることに決め、すぐ準備に取り掛かりました。そして大会当日になりました。正直1問も正解できるとは思っておらず、だから初戦では負けてしまったけれども2問正解できてうれしかったです。

この大会を通じて、普段身近でもふれることの少ない経済について学ぶことが出来ました。今後の生活に大切な知識を得るよい機会になったと思います。このような大会を開いてくださった金融知力普及協会の皆さん、スタッフの方々、そして私を誘い一緒に戦ってくれたパートナーの戸沼に感謝します。

ありがとうございました。





秋田大会 12月11日(土)開催

秋田銀行

優勝チーム 秋田県立秋田高等学校
「さばの味噌煮」
中川 優菜・鎌田 姫愛

主催 秋田銀行

参加校一覧

秋田県立秋田高等学校、秋田市立秋田商業高等学校、明桜高等学校

申し込みチーム数 11チーム (3校)

運営スタッフ感想

今大会は3校11チームに参加いただきました。

事前課題の小論文では、秋田県経済の実情を捉えたアイデアが多くみられ、レベルの高さに驚きました。4択クイズでは、チーム2人が力を合わせ、知識と早押しテクニックを駆使し懸命に取り組んだことと思います。総得点は上位2チームが同点であり、4択クイズの総解答時間が勝敗を左右する激戦となりました。見事、優勝を果たした秋田高校「さばの味噌煮」チームには、全国大会で実力を存分に発揮していただきたいと思います。最後に、参加していただいた高校生の皆さん、大会にご協力いただいた関係各所の皆さまにお礼申し上げます。



秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 2年

中川 優菜

私がエコノミクス甲子園の出場を決めたのは大会2週間前のことだ。1ヶ月前にポスターが黒板に貼られたときは参加するつもりはなかった。しかし、仲の良い友人が参加を決めたこと、先生から「理系でも将来的に金融の知識を付けておいて損はないよ」と言われたこともあり参加を決意した。

事前教材が送られてきてから毎日少しずつ勉強を進めた。考査期間と被ったこともあり、まとまった勉強時間をとることはできなかったが、中学校の公民でさわりしか勉強したことがなかった金融分野は知らないことが多くておもしろかった。

地方大会では最初は上位入賞を目指していたが、1問目で最速正解チームになったことで、これはもう優勝するしかないという雰囲気になった。金融経済、保険分野の幅広い知識を問われ、悩んだ問題もあったが2人で力を合わせてなんとか優勝することができた。

そして迎えた全国大会では1回戦敗退。地方大会より幅広く深い知識を問われ、かなり苦戦した。緊張で答えられなかった問題があったのも悔しい。自分達の勉強不足を実感する結果となってしまった。しかし、今大会で金融経済に関する勉強をできたこと、コロナ禍でオンライン開催となってしまったが全国の同年代の方々と交流できたことは本当にいい経験になった。

最後になりますが大会スタッフのみなさん、ほかの高校のみなさん、ペアとして約3ヶ月いっしょにがんばった姫愛さん、本当にありがとうございました！



秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 2年

鎌田 姫愛

私たちは初めてエコノミクス甲子園に挑戦しました。最初は2人とも経済のことについて少しでも知られたらいいなと思っての参加でしたが秋田大会で優勝することができ全国大会に進むこととなりました。ペアの人と担当する分野を分担しながら2人で協力して経済について学んでいくことで地方大会、全国大会へと駒を進めることが出来ました。全国大会はやはり地方大会とはレベルが全然違い、選手同士の戦いもとてもハイレベルなものでした。他校の戦いを目の前にして改めて自分たちとの勉強量の差を感じました。しかし、本番のクイズでは諦めることなく2人の知識を出し合い、最後までしっかりと問題と向き合い取り組むことが出来たので良かったと思います。私たちは初戦で負けてしまいましたが敗者が集まる部屋ではエコノミカというカードゲームが行われていたり、他校との交流などがありとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。事前クイズでは他校の人達と協力したり、交渉したりしながら答えにたどり着くことができ達成感を感じました。本番のクイズなどはリモートで行われましたが、事前クイズで話したり、待機所で一緒になった高校の人と話すこともできエコノミクス甲子園に参加しなければ関わることがなかったかもしれない人達と仲良くなることで良い経験になりました。エコノミクス甲子園はとても楽しく経済を学ぶ良い機会になりました。私は経済学部を目指しているのにより経済に興味を持つことができ、エコノミクス甲子園に参加し全国大会に出場できて本当に良かったなと思っています。





福島大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 福島県立白河高等学校
「白河高校サイコー」
田中 広樹・影山 悠吾



主催 東邦銀行

参加校一覧

福島県立郡山東高等学校、福島県立福島高等学校、福島県立福島南高等学校、福島県立石川高等学校、福島県立白河高等学校、福島県立安積黎明高等学校、福島県立安積高等学校、福島成蹊高等学校

申し込みチーム数 13チーム(8校)

運営スタッフ感想

今回のエコノミクス甲子園福島大会は、コロナ禍ということもあり、初のオンライン開催となりました。当日、福島県の高校は12チーム参加させていただき、画面越しではありますが当行職員もライブで応援いたしました。

「人生100年世代」と呼ばれる現代において、金融リテラシーの重要性はますます高まっており、本大会を通してお金や経済の知識を蓄える良いきっかけになると感じました。

当行は、これまで小学生向けのマネースクールや中高生に対する出前講座、複数の大学との提供講座等、幅広い世代に対して金融やSDGs等の教育に注力してまいりましたが、本大会を通して、改めて金融教育の重要性について認識いたしました。

当行は、今後も社会貢献の一環として幅広い層に対する金融リテラシーの向上に向けた教育支援活動に積極的に取り組んで参ります。

福島大会代表 福島県立白河高等学校 2年

田中 広樹

私は今まで、経済に全く興味がなかった。難しそうなイメージがあり、寄り付こうとさえしなかった。私はクイズ同好会に所属していることもあり、経済に関する用語を覚える必要もあったが、うわべだけの知識を覚え、その本質を見ようとはしていなかった。

今回の「エコノミクス甲子園」も、クイズ同好会の活動の一環として参加した。いくら経済が嫌いでも、流石に勉強しないで大会に参加する訳にはいかないの、渋々と事前教材で勉強しはじめた記憶がある。しかし、一度勉強をはじめると、分かりやすい解説やイラストのおかげで、初学者の私でもすんなりと理解することができた。今までクイズで得ていた表面的な知識の点が、線で繋がられたような感覚だった。

分かりやすい教材のおかげで、地方大会は割と余裕をもって突破することができた。その後の期間は、定期テストや模試が重なり、なかなか経済の勉強に時間を割くことができなかった。そんな中でも、チームメイトとエコノミカの研究をしたり、追加でもらった教材をうんうん唸りながら勉強したりしていった。

ヒント交換クイズやエコノミカ大会では、県外の高校との交流を通して、親睦を深めることができた。大会後日、ここで知り合った仲間とクイズの練習会をすることもできた。大会本戦では、事前ラウンドの順位によって同点敗退という結果になってしまった。他の組の問題はほとんど分かったので、とても悔しかった。

今回の大会を通して、普段なら絶対に近寄らなかったであろう「経済」に触れ、身近に感じる事ができた。ニュースを見て、分かる言葉も格段に増えた。これからも勉強を続け、経済をさらに身近なものにしていきたいと思う。



福島大会代表 福島県立白河高等学校 2年

影山 悠吾

エコノミクス甲子園の開催に携わって頂いたスタッフの方々、スポンサーの皆様ありがとうございました。オンラインでの開催が可能でない情勢であり直接コミュニケーションが取ることができないのは残念ではありましたが、とても素晴らしい経験になりました。大会に向けてどういった勉強をすれば良いか分からなかったのに教材を沢山送って頂いたことはとても助かりました。普段意識することのなかった経済に関心を持つことでニュースや新聞を見る機会が増え、新しい学びや視点を得ることができました。地方大会ではテスト期間と被ってしまい両立することが難しく相手に負担をかけてしまったので全国大会では自分が引っ張って行けるように経済の勉強を今まで以上に頑張りました。しかし、全国大会の結果は同点で事前順位の差で負けてしまい、1回戦を突破することができず悔しい思いをしました。負けてしまった後の敗者部屋では雰囲気が悪くなることはなく、敗退後も問題をみんなで解きたくさんの思い出を作ることができました。また、事前に貰ったエコノミカというカードゲームで対戦することが多く、経済の勉強にもなり楽しい時間を過ごすことができました。エコノミクス甲子園という大会を通じて全国の高校生と交流し、かけがえのない思い出を作ることができ、大会に参加してよかったと思いました。今回学んだことを将来活かしていきたい経済に関心を持って生きていきたいです。本当にありがとうございました。





茨城大会 12月19日(日)開催

筑波銀行

Tsukuba Bank

優勝チーム 茨城県立並木中等教育学校
「金木犀」
河合 舞音・腰塚 茉莉子



主催 筑波銀行

参加校一覧

茨城県立竹園高等学校、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、茨城県立古河中等教育学校、茨城県立勝田高等学校、茨城県立並木中等教育学校、明秀学園日立高等学校、常総学院高等学校、土浦日本大学高等学校

申し込みチーム数 33チーム(10校)

運営スタッフ感想

今年の茨城大会は、2021年12月19日(日)に33チーム、66名の参加により、オンライン開催されました。

今大会の優勝は並木中等教育学校2年生のチーム「金木犀」となりました。「金木犀」は昨年の大会に1年生で参加し4位と惜しくも入賞を逃しており、今回は、入賞を目指し頑張ったそうです。また、並木中等教育学校の参加4チームが上位を独占するという結果となりました。校長先生に聞いたところ、大学入試だけの勉強ではなく、金融経済やSDGsといった、様々な分野の教育にも取り組んでおり、担任の先生を含めた、本大会への積極的な取り組み姿勢が感じられました。

今回もオンライン開催となりましたが、表彰式を学校で行い、生徒たちの笑顔に触れられて非常にうれしかったです。地方大会を無事終了することができ、関係者の皆様に感謝いたします。



茨城大会代表 茨城県立並木中等教育学校 2年

河合 舞音

私がエコノミクス甲子園に出ようと思ったのは、いろいろな大会にチャレンジするのが好きで、私の将来の夢である政治家にも、金融知力は必要だなと思ったからです。そこで私はクイズ好きな腰塚さんを誘って対策を始めました。去年、高校一年生の時に地方大会に参加したときは、全国大会に出場できず、悔しい気持ちでした。今年は絶対に全国大会に出るぞ!という気持ちで昨年よりも力を入れて勉強しました。地方大会では去年の知識や、学校でやっているSDGsの活動の中で得た知識も活かしながら、優勝することができました。学校の友達との間で切磋琢磨して勉強できたことも理由の一つだと思います。全国大会の事前クイズやエコノミカという金融関係のカードゲームでは、全国の方たちと関わることができて楽しかったです。エコノミカは相方と待ち時間にやっていました。家族にも紹介して楽しみました。当日は、自分たちの番が来るまで他の学校の方々といろいろなお話ことができました。自分が住んでいる地域と離れたところに住んでいる他校の高校生と話す機会は少なかったため、とても楽しかったです。本番は一回戦で負けてしまいましたが、最終問題まで接戦で戦えたことが嬉しかったです。大会が終わった後も、これから連絡が取れるように連絡先を交換するなどしました。今でもたまに話しています。対面での大会ではありませんでしたがたくさんの機会があって充実した2日間になったと思います。ありがとうございました。



茨城大会代表 茨城県立並木中等教育学校 2年

腰塚 茉莉子

エコノミクス甲子園への出場は2回目です。昨年は地方大会で敗れ、全国大会まで進むことができませんでした。事前ラウンドとして行われたヒント交換クイズが印象に残っています。各チームに配られた問題文の一部を交渉しながら集めるというもので、取引によって生じる自分たちの利益、不利益だけでなく相手のことも考えて交渉しなければいけない点が難しかったです。同盟を結んだり、裏切ったり、偽の情報を流したり、などそれぞれのチームがポイントを最大限に手に入れるべく多種多様な動きをしていました。交渉はすべてチャットだったので、顔も知らない相手に対してどのような言葉を使って交渉をすればいいのか悩みました。

迎えた大会当日。地方大会で行われた4択クイズよりも問われる内容が難しく、ボードに記述するものがほとんどだったので半分も答えることができず、結果は一回戦敗退でした。オンライン開催でしたがZoomの待機部屋や敗者部屋でたくさんの参加者と交流することができました。一回戦で負けてしまったので沖縄尚学、岡山白陵、洛南、スタッフの臼井さんと赤井さんのいる待機部屋に戻るという約束を果たせず、多くの時間を敗者部屋で過ごしました。敗者部屋ではヒント交換クイズの時のチャットの殺伐とした雰囲気とは違って、出題されているクイズに対して大喜利をする人やエコノミカの新しいカードを考える人などが和気あいあいと話していて聞いているだけでも楽しかったです。

エコノミクス甲子園に参加したことで、経済のニュースへの関心が高まったり、自分のライフプランを考えるようになりました。

この大会の準備・運営をしてくださった学生スタッフの皆様、サポートしてくださった先生、誘ってくれた相方、すべての関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。





栃木大会 12月12日(日)開催



優勝チーム 栃木県立栃木高等学校
「青い花粉」
杉原 尚弥・関口 青空

主催 足利銀行

参加校一覧

栃木県立矢板東高等学校、栃木県立栃木高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立宇都宮商業高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校、宇都宮海星女子学院高等学校、作新学院高等学校

申し込みチーム数 40チーム(9校)

運営スタッフ感想

開会式・閉会式を個別にオンライン開催しました。慣れないことばかりで、開会式が始まるまでは不安でしたが、実際に学生の皆さんの顔を見て交流することができ、有意義な時間になりました。この経験を次回の大会運営に活かしていきたいと思います。



栃木大会代表 栃木県立栃木高等学校 2年
杉原 尚弥

今回エコノミクス甲子園に参加することが出来てとても良かったです。出場したきっかけは学校からもらったチラシでしたが、その時はまさか全国大会にまで行けるとは思っていませんでした。地方大会や全国大会でもらった事前教材からは、多くのことを学ぶことが出来ました。普段学校で過ごしているだけでは知ることのできない経済に関することを学ぶことができ、ニュースに対する見方も変わりました。特に投資の部分に興味を持ち、将来に役立つ知識を身につける良い機会になりました。全国大会は、地方大会以上に自分にとって有意義なものとなりました。まず、全国から勝ち上がってきた高校生たちのレベルの高さに驚きました。本番はもちろんでしたが、敗者部屋でも専門用語が飛び交っていてとても楽しかったです。1回戦では、事前順位が他の2チームと大きく離されていて同点になってしまうと負けるという後がない状況でしたが、勝つことが出来ました。これまでの頑張ったかいがあったなと思いました。2回戦では最後の一回で逆転されて負けてしまい、とても悔しかったです。しかし、お互いクイズ部でもなくクイズ大会自体も今回が初めてだった中で、2回戦まで進めてよかったです。そして、何より思い出に残っているのは、他校との交流です。待機部屋で他県の人と話をしたり、敗者部屋でわいわいやったりするのが、とても面白かったです。経済知識を競うだけでなく、全国の高校生と交流できるところも、エコノミクス甲子園のいいところだと感じました。最後に、コロナ禍にもかかわらずオンラインという形で大会を開催してくださったエコノミクス甲子園関係者の方々には感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。



栃木大会代表 栃木県立栃木高等学校 2年

関口 青空

経済の中に生きているのに、経済のことを全く知らない。それがエコノミクス甲子園に出る前の自分だった。

「インフレ」「円高」などの言葉は常にニュースなどで私たちの周りを飛び交っているが、それがどういった仕組みで、どういった意味を持つのかは分からない。

株やFXといったものに対しては、それが何かは知らないけれど、なんとなく危なそうなものという程度の認識しか持っていなかった。

しかし、エコノミクス甲子園の勉強を通してそれらの意味や仕組みを学んだことで、自分の経済への考え方は大きく変わった。経済はめちゃめちゃ大事。経済の仕組みを知っていることは人生において大いに有利である。これが今の考えだ。

ただ、今まで自分が経済を学ばなかったのは経済に興味が全くなかったわけではなく、別に高校生のうちに学ぶ必要はない、大人になってからでも十分間に合う、そう考えていたからという理由もある。

しかし、大会を通して、高校生にも関わらず膨大な量の経済の知識を有している人たちがたくさんいることを知った。きっとこういう人達がこれからの日本の経済を作っていくのだろう、それなのに自分は経済を知らないままでいいのだろうか、エコノミクス甲子園はそう考えるきっかけにもなった。

全国大会を終え、最低限の知識は付いたが、当然今のままでは不十分なのでアンテナを高くしてニュースや新聞などから知識をどんどん吸収するようにしたい。

最後に、経済をクイズという楽しい形式で学べる機会を用意して下さったスタッフ及び関係者の皆様、長い間一緒に勉強してくれた相方に感謝申し上げます。





群馬大会 12月19日(日)開催

群馬銀行

優勝チーム 群馬県立中央中等教育学校
[ODA]
阿佐美 龍生・笠原 綺乃



主催 群馬銀行

参加校一覧

群馬県立高崎女子高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立伊勢崎清明高等学校、群馬県立中央中等教育学校、利根沼田学校組合立利根商業高等学校

申し込みチーム数 19チーム(6校)

運営スタッフ感想

早押し一位の結果がバラけていたので、最後まで結果が読めず緊張感がありました。Zoomインタビューに答えてくれたチームの二人が楽しそうだったのが印象的でした。司会の方もおっしゃっていましたが、遠方の高校生も参加しやすいのはオンラインの利点だと思います。他県のチームの様子も見ることができ、来年の参考になりました。

100点越えで優勝したODAの全国大会での活躍を期待しています。

群馬大会代表 群馬県立中央中等教育学校 1年

阿佐美 龍生

まずは、今大会の開催、運営に関わってくださった方々、特に群馬銀行の方々には大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

秋頃に、エコノミクス甲子園のポスターを初めて見つけました。当時は、経済に対して漠然としたイメージしかなく、ただ興味があるからという理由で、参加を決意しました。

地方大会当日は、慣れないインターネット大会への懸念もありましたが、問題を解いている間は、自分自身の金融知識の向上を実感すると同時に、大会を楽しむことができました。メンバーの笠原と互いの得意分野などを取り決め、相互に金融知識を補い合うことで、常に確実な答えを考えながら一問一問に向き合えたことが地方大会の勝因だと考えています。高校1年で地方大会優勝を実現できるとは思っていませんでしたので、結果を耳にした時、大変嬉しかったことを今でも鮮明に記憶しています。

全国大会までには、学校の定期試験などもあり、運営側から送っていただいたテキストを仕上げるまでにとっても時間がかかってしまいました。(前日の夜遅くまで勉強に取り組みましたが、完璧には終わりませんでした。)それでも、地方大会同様、笠原と協力し効率良く勉強できたなど実感しています。また、大会当日は、各地方大会を勝ち抜いたレベルの高い先輩方と交流することができ、普段の学校生活では得られない有意義な経験を得られました。惜しくも1回戦敗退という結果になってしまいましたが、最後まで経済の勉強に自主的に取り組むことができたことで、自分自身の大きな成長につながったと確信しています。

大会が終わった日々の生活の中でも、経済に関するニュースへの関心や理解が以前より深くなったり、自分の探究活動に応用したりすることができています。そのような中でエコノミクス甲子園によって得られたものの大きさを改めて実感しています。

これからも経済に対する興味・関心を深めながら、自分自身の経済・金融に関する知識や見聞をさらに広げていきたいです。本当にありがとうございました。



群馬大会代表 群馬県立中央中等教育学校 1年

笠原 綺乃

人生初のエコノミクス甲子園。人生初の全国大会。全国各地から集まってきた高校生の皆さんのレベルの高さに圧倒されると共に、刺激を受けました。ただ幅広い知識を持っているだけでなく、それらに関する深い理解があるということが、対戦したり多くの試合を見たりする中で伝わってきて、自分はまだまだ未熟であることを痛感しました。

事前ラウンドでは、クイズのヒントを交換するための熱い交渉が繰り広げられ、どういった戦略が効果的なのか、誰が本当に信用できるのか、クイズ大会ながら高度な交渉力も求められたことが印象に残っています。

全国大会当日は朝から緊張や不安でいっぱいだったのですが、一回戦開始前に他の高校の方やスタッフの方が優しく誘導ルームから送り出してくださり、かなり落ち着いて本番に臨めたように思います。エコノミクス甲子園全体の雰囲気本当に温かく、来年、またここに戻ってきたいと強く感じました。

また、全国大会に向けての勉強で、今まであまり身近に感じてこなかった新聞のニュース等にも目を向けるようになりました。そういったメディアや、たくさんいただいた事前教材などを通して、今まで全く詳しくなかった経済に関する知識を得られたこと、そして、今大会で様々な方と交流できたことは、私にとって大きな財産になりました。エコノミクス甲子園に関わる全ての方々、そして応援してくださった方々、本当にありがとうございました。来年も全国大会への切符を地方で手にし、今年以上の結果を残せるよう頑張りたいと思います。





埼玉大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 栄東高等学校
「ささがきミント」
稲葉 琉晟・佐々木 遼



主催 埼玉りそな銀行

参加校一覧

開智未来高等学校、狭山ヶ丘高等学校、栄東高等学校、山村学園高等学校、大宮開成高等学校、埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立八潮南高等学校、城北埼玉高等学校

申し込みチーム数 25チーム(8校)

運営スタッフ感想

上位は接戦で、高校生の皆さんの真摯な取組が伝わってきました。優勝した「ささがきミント」の稲葉さん、佐々木さんからは「埼玉県勢初の優勝を目指す」との頼もしい言葉を聞いています。ぜひお二人のチームワークで実現してほしいと願っています。



埼玉大会代表 栄東高等学校 1年

稲葉 琉晟

今回の大会で栄東高校クイズ研究部の挑戦は10回目となりました。多くの先輩方が10年間挑戦し続け、それを受けて自分も今年エコ甲に挑戦しました。そしてようやく悲願の栄東初かつ埼玉県代表初優勝を果たすことができ、本当に嬉しく思います。

元々自分は金融経済という分野を科目の一つぐらいにしか捉えていませんでした。ですがエコ甲に取り組むことを通じてその仕組みや歴史を勉強し、社会で生きていくうえでその知識の大切さや知識だけでなくその知識を基に考える力、自ら問題提起する力が必要なのだ学びました。今回は優勝することができましたが、今ある金融経済の知識だけで十分だとは思っていません。来年再びエコ甲に挑戦するためにも、将来経済をしっかり理解し上手く利用して生きていくためにももっと勉強したいと思います。

大会は事前ラウンドの「ヒント交換クイズ」に始まり、手探り状態で他校の出場者の方たちとコミュニケーションをとりながら親交を深めることができました。特に待機部屋が同じだった3校とは楽しくお話しすることができ、オンラインではあったものの交流の場も充実していました。本戦は、知識面で大きくパートナーに支えられながらも自分たちの実力を発揮し、ルールや問題の運も上手く噛み合っ順調に勝ち進むことができました。1問1問考えながら終始非常に楽しく解くことができました。

最後に、このような情勢の中今年もエコノミクス甲子園を開催して下さった主催・運営の皆様はじめ、支え応援して下さった先生方・両親、対策に付き合ってくれた部員・OBOG、そして共に戦ってくれたパートナー。沢山の人のおかげで優勝まで辿り着くことができました。本当にありがとうございました。



埼玉大会代表 栄東高等学校 2年

佐々木 遼

この場でこのようなことを書くのは失礼にあたるのかもしれませんが、私は、例えば大会を通して自身の主張を広めたいとか共通点をもつ同志と交流をしたいといった崇高な目的のために今回のエコノミクス甲子園に出場した訳ではありませんでした。今年の埼玉大会に出場した理由は昨年敗北した同級生にリベンジをはたすということが大きな動機でしたし、その昨年に勉強をしていた動機に至っては「先輩の出ている大会を見て自分にも出来そうと思ったから」です。振り返ってみれば私がこの大会で求めていた物は単なる自己満足であって、それ以上ではないのかもしれない。

ただ、それでいい、むしろそれこそが大切だ、と私は考えています。閉会式で野中さんが仰せになったように、今回の大会で必要だったものは純粋な知識のみであって、検索すれば人間の覚えられるよりも多くの正確な情報が手に入る現代ではそれを大量に持っていることそのものは実際のところ何の役にも立ちません。このような競技に意味を見出して努力することを可能にするのは、個人の自己満足に他なりません。例えば、人間が走って車より速く移動することは不可能です。それでもマラソン選手が世界新記録を出そうとするのは、本人がそれを出したいからに他なりません。この大会で好成績を出そうとするのもこれと原理は全く同じではないでしょうか。

ならば、この大会で得られるものは自己満足だけなのか。そのように問いかけると、決してそれだけではないことも同時にわかります。先ほどのマラソンの例でいえば、世界新記録のために練習して体力をつけた事は絶対に無駄にはならないでしょう。同様に、今回の大会に向けて勉強をしたことで抱いた金融・経済への興味、目標へ向かってまっしぐらに努力するという事で得られる精神的成長などは確実に自分の糧となったと信じています。

最後に、このような大会を開催していただきありがとうございました。





千葉大会 12月19日(日)開催

千葉興業銀行

千葉銀行

準優勝チーム 市川高等学校
「BiBi」
福井 優・南方 直大



主催 千葉興業銀行・千葉銀行

参加校一覧

渋谷教育学園幕張高等学校、日本体育大学柏高等学校、市川高等学校、千葉県立千葉高等学校

申し込みチーム数 14チーム(4校)

運営スタッフ感想

学生が楽しそうに参加している様子をYouTubeで拝見していました。結果発表の際に、呼ばれた学生の方がとても嬉しそうにしている姿を見ると、僅かながらでも携われて良かったと思いました。

上位3位に入られた方たちには直接賞状やメダルを授与させていただきました。来年度大会への意気込みも聞くことができ、エコノミクス甲子園を非常に楽しんで参加してくれたのだと実感しました。

参加された高校生の皆さん、本当にありがとうございました。今後も千葉興業銀行と千葉銀行の2行で協力し合い、千葉大会を更に盛り上げてまいります。

※優勝チーム(千葉県立千葉高等学校「ミセス・ワタナベ」)は全国大会出場辞退のため準優勝チーム(市川高等学校「BiBi」)が全国大会へ出場。

千葉大会代表 市川高等学校 1年

福井 優

学校からの案内で大会に参加した。

申し込むと何冊もの教材が送られてきて、ペアの子と分担して勉強をはじめた。初めて学ぶ分野が多かったので勉強に時間がかかったが、その分多くの知識を得ることができ、どんどん身につけていった気がする。

地方大会当日は休みの学校に入れて特別感があった。問題を解けたときは達成感があったが、知らない内容が出題された時もペアの子が答えてくれて頼もしかった。

結局、準優勝だったため全国大会には行けないはずだったが、優勝者が受験の都合で参加出来ず参加できるようになった。

三冊ほど教材が配られてきて、初めは計画的に進めようと思っていたが、どんどん先送りにしてしまい、結局バタバタになってしまったことを反省している。

大会前日はオンラインでカードゲームをしたりして各高校の学生さんと親睦を深められ、またスタッフの方ともたくさんお話をさせていただいた。

そして大会当日。事前に配布された教材に載っていない様な難しい問題も出て、勝ち上がることはできなかったが、学習した範囲は全て答えることができたので、やることはできたかなと思っている。

全国大会に出場するという様な経験は初めてだったため、不思議な感覚で、少し不安もあったが、2人1組での参加だったため心強く、楽しく参加することができた。役立つ知識ばかりが得られたので出場してよかったかなと思っている。



千葉大会代表 市川高等学校 1年

南方 直大

今回私がエコノミクス甲子園に出て良かったと思った事は大きく分けて3つあります。

まず1つ目は多くの友達と楽しく大会に参加することができたと言うことです。自分の相方の事ももちろんこれまで以上に知ることができましたし他校との交流の中ですごいなと思ったり尊敬できる人たちをたくさん見つけることができました。大会の時も白熱して、自分が負けた後も他のチームを応援したりクイズの答えをを考えてみたりとても楽しかったです。

2つ目は金融知力を得ることができたという点です。将来大人になったときに訪れるであろう様々な困難や良いこと幸せなこと、これらの全てにはお金がかかります。人生においてお金が一番大事というわけでは無いですがお金が大事である事は確かです。その上で今回の大会を通して詐欺などに騙されないことやお金にも働いてもらうなどの新しい考え方、どのような貯金があるか、老後の資金など自分の人生を生きていく上で少しでも賢くお金と付き合いけるような知力を得ることができたと思います。

最後に、これは僕たちだけだと思うのですがリスクヘッジの、または分散投資の大切さです。僕たちは事前順位の決定のためのヒント交換クイズにて他の学校に騙されていました。そしてその誤った情報に自分たちの保有ポイントを全て賭けてしまいました。その結果事前ポイントは0ポイント。事前順位の方もとても低くなってしまいました。僕たちは初戦は他のチームと同点で終わってしまったため事前順位により敗退が決定してしまいました。僕たちは事前順位なんて同点になった時しか使わないからそこまで大きな影響は無いだろうと思っていたと同時に分散投資の大切さについては勉強していたのにもかかわらず1点賭けの誘惑に負けポイントを全て同じところに賭けてしまいました。悔しかったと同時に少しぞっとしました。将来大人になったときにこんなふうに分かる自分の将来や全財産が一時の誘惑に負け失われてしまうことがあるんじゃないかと思ったからです。

悔しかったことや楽しかったこと色々あったエコノミクス甲子園でしたが僕たちはこの大会を笑顔で終わることができました。それも全て大会を運営して下さったスタッフの皆様や銀行の皆様、学校の先生方のおかげです。そのことに最後に感謝申し上げます。もしも来年叶うならばもう一度出場してリベンジを果たしたいと思いました。





神奈川大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 洗足学園高等学校
「ジョン」
中川 杏香・松永 凜々子



主催 横浜銀行

参加校一覧

聖和学院高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校、神奈川県立川和高等学校、神奈川県立厚木高等学校、清泉女学院高等学校、洗足学園高等学校、横浜雙葉高等学校、横浜市立南高等学校、横浜創英高等学校、川崎市立川崎高等学校、中央大学附属横浜高等学校

申し込みチーム数 22チーム(13校)

運営スタッフ感想

神奈川大会にご参加頂いた皆さん、お疲れさまでした！

この大会まで、たくさんの時間を費やして勉強されたのではないのでしょうか。

この期間で身に付けた知識は、生涯に渡って皆さんを助けてくれると思います。

この大会が、生涯役に立つ「金融」について興味を持つきっかけとなっていたらとても嬉しいです。

本当にお疲れさまでした！



神奈川大会代表 洗足学園高等学校 1年

中川 杏香

全国大会出場を終えた今、金融知力を一層高めることができた実感しています。出題範囲の中で私は主に株及び投資分野に力を入れましたが知識の向上とともに、経済ニュースなどの話題の内容についていけるような力が身についたので、今大会は非常に有意義なものになったと思います。私は以前から投資にとっても興味が有り、実際に行っていたと常日頃思っています。将来、自分だけではなくお金にも働いてもらいたいと考えているからです。ですが、なんの知識もなく投資を行えばそれこそギャンブルと大して大差ないと知っていたので、普段の生活で投資に関する知識を深めようとはしていたのですが、中々他の勉強と並行して上手に取り組むことが出来ていませんでした。そんな折に今大会によって与えられた機会は私にとって貴重なものであり、それを最大限に活用し、「自分の将来のため」に経済知識を増やすことが出来たと思います。また、たとえ投資を行わなかったとしても、将来自立したときには必ず経済に関わらなければなりません。「お金」は生きていく上で必須なものであり、それと上手く付き合えるかどうか今後の人生を左右すると私は考えています。世間では悪質な商法などが存在し、そういったようなものに引っかからず、経済的なトラブルに巻き込まれないためにも経済の仕組みを理解し、より知識を深めることは「自分の将来の糧」になると思います。したがって今回参加させていただいた金融知力普及協会様主催の第16回エコノミクス甲子園全国大会は私にとってとてもためになり、出場して良かったと心から思っています。たとえ大会のルール上負けてしまったとしても、得た知識が失われることはないの、自分の将来のためにも来年もぜひチャレンジしようと思います。



神奈川大会代表 洗足学園高等学校 1年

松永 凜々子

私は、経済とクイズに興味があったため、軽い好奇心からこのエコノミクス甲子園に出場することを決めました。

全国大会では、聞いたことさえない経済用語を飄々と解答されている他チームの方々の実力を間近で見て、そのたった数問にかけてきた計り知れない努力に驚いたとともに、終始焦りと不安を覚えていました。初戦の五問からすでに実力の差を思い知る結果となった私たちはしばらく放心状態でしたが、自分たちの金融知力の成長を確かに感じていました。この大会のために勉強した時間は全て有意義だったと言えます。

私にとって参加したことで他の方々から良い刺激を受け、自分と同じように金融やクイズに興味がある仲間ができたことは一生の財産です。また、今回得ることができた金融知力は実生活で役立てるからこそ意味があると思うので、積極的に使っていきたいです。

私たちは未だに消化しきれていない気持ちが大いなので、これから一年弱かけて再び勉強をし、来年も参加したいと思います。

貴重な経験をありがとうございました！





新潟大会 12月19日(日)開催

第四北越銀行

優勝チーム 新潟県立新潟高等学校
「コモンウェルス」
木村 遼・小林 航己



主催 第四北越銀行

参加校一覧

新潟県立直江津中等教育学校、新潟県立柏崎高等学校、新潟県立新発田高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新潟商業高等学校、新潟明訓高等学校

申し込みチーム数 9チーム(6校)

運営スタッフ感想

ご参加いただいた新潟県内の高校生みなさん、大変ありがとうございました。

優勝した「コモンウェルス」のおふたり、新潟制覇おめでとうございます。

全国大会でも頂点を目指して頑張ってください！応援しています。

新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 1年

木村 遼

私はエコノミクス甲子園全国大会に出場して、私自身の知識不足を身をもって体感しました。新潟大会では相方の小林さんの力に頼りながら全国大会の出場を決めることができましたが、私自身はあまり力になることができなかったと思います。そのため全国大会に向けて事前資料等で勉強しようと決意しましたが、私は経済の基礎知識がなく、事前資料を読む段階ではありませんでした。しかし、本番で負けるまではそのことに気づかず、分かったつもりになって事前資料を読んでいました。本番の第1ラウンドでは3ポイントを取ることができましたが、それも私の力ではありませんでした。2人1組のこの大会において、自分できていないと相手にも迷惑がかかるということを学びました。今まで理解しているつもりでありましたが、理解できていませんでした。これはどんなチーム競技にも共通することなので、いまの悔しさ、後悔を忘れることなく自分の人生のスキルにしていきたいと思います。

そのような中でも得たものもあります。それは県外の代表生徒の方々と交流です。この大会を通して、普段は決して交流することのない新潟県外の高校生と交流する場面が多くありました。そのため、各県の特徴や各学校の素晴らしさを知りました。また、大会終了後も一緒に戦ってきたライバルたちと交流を続けています。この大会に参加しなければ出会わなかった仲間と出会えて、とても嬉しく思います。

最後になりましたが、大会を企画・運営してくださいました金融知力普及協会の皆様、交流して下さった各県の代表生徒の皆様、応援して下さったすべての方々、そして、共に戦ってくれた小林航己君に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 1年

小林 航己

友人に誘われて参加した地方大会。事前資料を丁寧に学習し、自分の手応えに反して県大会で優勝しましたが、同じ問題で行われた他県の大会より優勝得点は低いものでした。この大会は、事前資料だけや単語を無機質に暗記するだけでは成果を得られるものではなく、自分は全く金融経済を体系的に捉えられていなかったことを自覚させられました。全国大会に向けて、一から経済が生み出す世界観の理解に努めました。経済用語や仕組みの理解だけでなく、インターネットやSNSを通して実体の理解にも努めました。全国大会の事前第1ラウンドのヒント交換クイズでは、様々なパーツの転売、大量パーツのパッケージ化等が行われる中で価格変動の意味を実体験を通して理解できました。また、教訓として、経済における秩序の重要性を痛感しました。地方大会と同じ形式の事前第2ラウンドでは地方大会よりも高難易度の問題が出題されました。まだ未熟でしたが、以前には答えられなかったであろう問題に正答することができました。大会当日。私達は1ポイント差で1回戦敗退してしまいましたが、ここで出題された問題も大会以前は答えられなかったものであり、地方大会から2ヶ月での変化を噛みしめられました。

大会を終えた今でも、ニュースにおける経済情報の、背景を含めて理解が容易になりました。単なる知識で終わるのではなく、実生活へ昇華することは今後も大切になるでしょう。

しかし、地方大会までの数週間、全国大会までの2ヶ月だけでは全国大会で結果を残すほどの金融知力へ導けないことも痛感しました。洗練された金融知力というのは、人生において有用なものとも言えますが、一朝一夕の暗記で育まれるものでないはずで、これからも勉強を続けていき

たいと思います。

最後に、今年もオンライン開催となる中、大会運営に尽力して下さった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。





富山大会 12月12日(日)開催

北陸銀行

優勝チーム 富山県立高岡高等学校
「櫻翔」
小森 知世・松本 居凌



主催 北陸銀行

参加校一覧

高岡龍谷高等学校、片山学園高等学校、富山県立高岡高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立呉羽高等学校、富山県立南砺福野高等学校

申し込みチーム数 23チーム(7校)

運営スタッフ感想

当日は21チーム42人に参加いただきました。

昨年同様オンライン開催(YouTube 配信)としたため、参加者の様子を伺えず残念でしたが、YouTubeのチャット欄で意気込みなどを聞くことが出来て良かったです。

クイズ中の演出として、司会者もクイズ解答に挑戦してみました。銀行員でも分からない問題がありました。この大会で出題される問題の難しさを実感すると同時に、学生のうちからお金や社会のことを学びきっかけとして有意義な大会であると改めて感じました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んで参ります。



富山大会代表 富山県立高岡高等学校 1年

小森 知世

私がエコ甲に出ようと思ったきっかけは、ゲストにQuiz Knockのこうちゃんがいたことでした。私はQuizKnockのファンなので、優勝して全国大会に行ったら会えるかもしれない、という淡い期待を抱いて、軽い気持ちで応募しました。

エントリーした方がいいものの、最初に事前教材が届いた時は想像以上の量でどこから手をつければ良いかわからず、学校の定期考査も重なっているなど、不安要素がたくさんありました。

朝や休日に集まって勉強したり、自分で自作クイズを作って繰り返し練習したりしてその不安要素をひとつひとつ取り除きながら、地方大会を迎えました。

今年はオンライン開催だったので、中間地点での他チームとの点差なども全くわからず、結果発表で急に私たちの名前が呼ばれた時、とてつもない驚きと同時に全国大会に行けるという喜びに胸が熱くなりました。

全国大会では、地方大会とは比べものにならないレベルの高さに自分の甘さを痛感した一方、他チームがそのような問題にも堂々と答えているのを見て、自分と同じ高校生で、こんな人たちがいるのだと刺激を受けました。

そしてこの大会を通じて、最初はほんの少しの好奇心しか無かった経済・金融などの分野に、大きな興味を抱くようになりました。大会が終わった今でも、新聞を少しずつ読むようにしたり、学校の勉強に飽きた時は経済の本を見てみたり、テレビをつけると無意識にニュースのチャンネルを見たり...と、以前までの私には考えられない行動ばかりです。そんな私にしてくれたのは、間違いなくこのエコノミクス甲子園という大会です。

私は1年生なので来年も是非参加したいです。そう考えられる価値のある大会でした。この大会に参加して本当に良かったです！

最後に、大会期間中仲良くしてくれた高校生みなさん、裏でたくさんのお支え、動かして下さったスタッフ



の方々、そして私がわからない問題にもすらすらと答えてくれて、私が間違えた時は文句も言わず励ましてくれたペアには、感謝しかありません。皆さん本当にかげがえのない経験をありがとうございました。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校 1年

松本 居凌

私は富山県代表として第16回エコノミクス甲子園に出場させていただきました。地方大会の時も全国大会の時も共に中間考査や学年末考査と時期が重なり苦しんでいたのを覚えています。言わば科目が1つ増えたようなものです。

ですが、今大会で学んだ金融用語や知識がテレビや日常会話で出てくると、「ここエコ甲でやったところだ！」と、金融知識アンテナを張ることができるようになったと思います。

初めは、金融知識って役に立ちそうだけど難しそうと思っていた。確かに難しいし、理解に苦勞するシステムも沢山ありました。ですがその先に得られるアドバンテージは大きいと確信しています。5教科の勉強は大学までで終わってしまいますが、金融の勉強は一生必要なものです！だからこそ高校生のうちから基礎的なものでいいからやってみることが重要だと改めて気付かされました。1回戦敗退と言う不甲斐ない結果に終わってしまいましたが、来年こそは全国優勝して研修旅行に行きたいと思います！

今回大会開催にあたって、地方大会を開催して下さった北陸銀行様や全国大会の運営をして下さった金融知力普及協会様、またプラチナスポンサーのマニユライフ生命様を初めとするスポンサー、関係各位の皆様へ感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。





石川大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属高等学校
「総理と財務相」
岡田 拓弥・氏家 直太郎



主催 北國銀行

参加校一覧

金沢学院大学附属高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立金沢商業高等学校、石川県立宝達高等学校

申し込みチーム数 7チーム(5校)

運営スタッフ感想

オンライン開催のため、遠方の高校からの出場が可能となる点が、魅力だと感じました。

コロナ禍の開催に伴ってオンライン開催を選択しましたが、オンライン大会ならではの良さを感じました。

(一般の視聴者も閲覧可能、学校の立地に関係なく参加可能、同日参加校の点数により他地域のレベル感を把握できる。)



石川大会代表

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 2年

岡田 拓弥

決勝戦、9問目の正解が発表された時、私たちの敗北が決まりました。優勝を掲げ、出場しただけに、準優勝という結果は悔しいものでした。ですが、今になって思うとある意味で当然の結果だったと思います。エコノミクス甲子園は、ただ単純に知識の多寡を競う大会ではありません。事前ラウンドにおける駆け引きや交渉にはじまり、本番での戦略やペアとの連携、勝負事には付き物の運など、様々な要素によって勝敗が決まります。そのような中で、不足している知識をペアと補完し合う体制を十分に構築できず、運を味方につけきれなかったことは、れっきとした敗因です。反対に、それらをきちんと仕上げてこられた栄東のお二人には、最大級の賛辞を送りたいと思います。

ですが、他の出場者との出会いや交流は、結果以上のものを私(たち)にもたらしてくれました。センス抜群の解答を披露してくださった弘学館、圧倒的な知識量を誇っていらっしやう旭川東、私たちの学校名の長さをネタとして昇華してくださった慶進、同じ北陸勢・過去優勝校として準決勝で相見え、熱戦を繰り広げた藤島、他の出場者の活躍は挙げるときりがありません。彼らは、私たちに知的な刺激を与えてくれると同時に、楽しむことの大切さを改めて教えてくれたように思います。今後も、そんな彼らと種々の交流を通し、互いに切磋琢磨していきたいです。

私は、経済学部に進学し、将来的には投資銀行でM&Aに携わりたいと考えています。そんな私にとって、今回身につけた“金融知力”は、人生を豊かにしてくれる財産と言えるでしょう。今回得た知識と出会いを大切にしながら、この先も学び続けていきます。

最後になりますが、全国大会を主催・運営して下さった皆様、石川大会を主催して下さった北國銀行の皆様、相手の氏家、その他の皆様より、多大なるご尽力を賜りましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



石川大会代表

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 2年

氏家 直太郎

昨年度の地方大会での敗北を経て、2度目の挑戦となった今大会。私も岡田も生徒会役員としての仕事があり(チーム名はそれに由来します)時間が限られていた中でも「出るからには優勝しよう!」と臨んだだけに、準優勝という結果は本当に悔しく思っています。同時に、決勝で対戦した栄東さんの抜かりのない知識には感服しました。岡田に助けられた部分も多々あり、「ここもっと勉強しておけば…」と思うところもあります。しかし、大会を通して「金融知力」は格段に高めることができました。

もともと新聞を読んだりニュースを見たりすることが好きな私は、経済の勉強は苦ではありませんでした。送られてくる教材はどれもわかりやすく、学べば学ぶほど社会の仕組みをどんどん知れる気がして、とても楽しく取り組みました。経済学部志望ではない私にとって、この知識が学校での勉強に直結するわけではありませんが、これから社会に出た際には必ず役に立つと信じています。

そして他チームの皆さんと関わったのも大きな思い出の一つです。ヒント交換クイズでは多くの人とメッセージをやり取りし、エコノミカ大会や控室では画面越しではあるものの顔を見ながら雑談し…。大会を通して新しい仲間ができたこととても喜ばしく思っています。そして大会が終わった後もこのつながりは消えていません。現地開催がかなわなかったのは残念でしたが、数年後運営ボランティアとして直接集まるのを楽しみにしています。

来年は参加できませんが、私たちが準優勝したことによってもっと多くの後輩たちがこの大会に興味を持ち、参加してくれると嬉しいです。そして、再び優勝トロフィーをこの学校に持ってくることを期待しています。最後に、コロナ禍にあっても素晴らしい大会を開催して下さった関係者の皆様、北國銀行の皆様、さまざまな形で関わった他チームの皆さん、そして相手の岡田、本当にありがとうございました。





福井大会 12月12日(日)開催



優勝チーム 福井県立藤島高等学校
「ミドルホーム」
木暮 龍樹・山本 丈太郎



主催 北陸銀行

参加校一覧

福井県立高志高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立敦賀高等学校、福井県立勝山高等学校、福井工業大学附属福井高等学校、仁愛女子高等学校

申し込みチーム数 22チーム(6校)

運営スタッフ感想

当日は19チーム38人に参加いただきました。

昨年同様オンライン開催(YouTube配信)としたため、参加者の様子を伺えず残念でしたが、YouTubeのチャット欄で意気込みなどを聞くことが出来て良かったです。

クイズ中の演出として、司会者もクイズ解答に挑戦してみましたが、銀行員でも分からない問題がありました。この大会で出題される問題の難しさを実感すると同時に、学生のうちからお金や社会のことを学びきっかけとして有意義な大会であると改めて感じました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んで参ります。



福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年

木暮 龍樹

公的年金に依存することなく、自らで資産形成を行うことが求められるこれからの時代を生き抜くには、金融知力を備えることが必要不可欠である。金融知力とは、金融や経済の知識と、それを使いこなす力を意味する。金融知力は必須であるのにも関わらず、高校までの教育においてそれを学ぶ機会はほとんどない。それではどのようにして金融知力を身につければよいのだろうか。

私の考える一つの方法は、エコノミクス甲子園に参加することである。エコノミクス甲子園に参加すると、経済や金融に関する知識が体系的にまとめられた本を手に入れられる。それを使って勉強することで、金融知力を習得することができる。それだけでなく、大会で上位入賞すれば、賞品を獲得することができる。

これほどうまい話はあるまい。だからこれを読んだ高校生は是非エコノミクス甲子園に参加すべきである。

以下、全国大会の感想を述べる。

事前ラウンドのヒント交換クイズは相方に任せきりであったが、他の高校のパーツの情報を得るために交渉を重ねる様子が、ビジネスのようで面白く感じた。

第一ラウンドや第二ラウンドは、私の勉強不足で、正解できるはずだった問題を不正解にしてしまった。それでも勝利できたのは、相方の勉強量と知識量が圧倒的だったからだと思う。準決勝の問題は非常に難易度が高く、惨敗してしまった。その難易度の問題にも正解していた金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校チームの知識の深さには感服した。エコノミクス甲子園に参加して、自分の金融知力の浅薄さを痛感したので、経済や金融について広く学ぶようにし、金融知力を深めていきたい。



福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年

山本 丈太郎

「一緒にエコノミクス甲子園に出よう」

そう声をかけてくれたのは木暮くんでした。彼のその言葉がなければ私はエコ甲に出場していなかったでしょう。

私が高校一年生のとき、私は同じクラスだった子とエコ甲への参加の申込みをしました。結局部活の遠征と日付が被ってしまいその大会は参加が叶いませんでしたが、もし出場していても望むような結果は出せなかったと思います。それは単に勉強不足だったからですが、もっと深く考えてみると、当時の私は経済を学ぶ楽しさを知りませんでした。送られてきた事前教材に目を通してなんのこともさっぱりといった感じで、いざ申し込んだらいいものの大会はあまり乗り気ではありませんでした。

その経験もあり、2年生になった私はエコ甲のことなど考えてもいなかったのです。

そして冒頭に戻ります。彼との出会いには感謝してもらえません。

しかし、私が経済の知識に興味を持ったのは実は地方大会が終わってからなのです。地方大会を実質一人で勝ち抜いてしまった木暮くんへの罪悪感と憧れが私を突き動かしました。地方大会が終わってからのというもの、私は全国大会に向け全力で勉強しました。はじめは木暮くんの顔に泥を塗る訳には行かないという気持ちでしたが、勉強すればするほど経済の魅力に取り憑かれていきました。

迎えた全国大会では、事前ラウンドから閉会式まで多くの同世代の子と親睦を深めることができました。彼らと切磋琢磨した時間は私の一生の宝物です。本当に大会に出てよかったと心の底から思います。

「金の切れ目が縁の切れ目」という言葉があります。私はエコ甲を通して人との繋がりの大切さを学びました。私達はお金を扱うエコノミストである前に、感情を持った一人の人間であるということを意識していきたいです。





山梨大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 駿台甲府高等学校
「駿高α」
郷 晴斗・湊 達希



主催 山梨中央銀行

参加校一覧

駿台甲府高等学校、甲府市立甲府商業高等学校、山梨英和高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立甲府西高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立日川高等学校、山梨県立吉田高等学校、山梨学院高等学校、北杜市立甲陵高等学校

申し込みチーム数 26チーム (11校)

運営スタッフ感想

金融知力普及協会の皆様の努力により、今回もエコノミクス甲子園が開催でき大変嬉しく思っております。高校生にとって、経済について学ぶ良い機会と考えておりますので、引き続き開催できればと思っております。



山梨大会代表 駿台甲府高等学校 1年

郷 晴斗

私は友達に誘われてエコノミクス甲子園に参加した。教材がたくさん送られてきたとき、正直「これを全部覚えるのは大変だな…」と思った。しかし、教材を読んでも、これが読みやすく、経済・金融のことから私があまり知らなかった保険や奨学金のことまで分かりやすく詳しく説明してくれるので、勉強がとても捗った。ここで勉強した知識は将来必ず役に立つであろうものばかりだったので、エコノミクス甲子園に参加してとても得をしたように感じた。放課後、相方と学校に残って2人で一緒に勉強したり、問題を出し合ったりしたのはとても楽しい時間だった。青春を感じられた。

地方大会を勝ち抜き、全国大会に出場することになると、より難しい教材が送られてきた。結局全部覚え切ることが出来なかったが、本番で事前に勉強したことが出てきたので、しっかりと答えることができた。

実際に全国大会の本番を迎えると、とても緊張した。自分達の番が始まるまで他のチームの戦う様子を見ていたのだが、地方大会に比べて難易度が上がっており、分からない問題も多かった。しかし自分達の番が来て、問題が読まれると、相方の助けもあり、なんとか第1ラウンドを突破することができた。2人いることでお互いがわからないところをカバーし合えるため、それほど知識に自信がなくとも戦うことができた。

私達は途中まで勢いよく進んでいったが、第2ラウンドの最後で逆転され、敗退してしまった。しかし、敗者部屋はとても雰囲気良く、他のチームとエコノミクスで遊んだり、クイズに答えあったり、雑談したりと楽しく過ごすことができた。

全国大会に参加し、他の高校の人と親睦を深められ、また生涯使える金融・経済知識を身につけられた。運営して下さったスタッフの方々には本当に感謝しかない。



山梨大会代表 駿台甲府高等学校 1年

湊 達希

エコノミクス甲子園への参加を決意してホームページからこの活動報告書を読んでいる方も多いと思うので、次回のエコ甲に初めて参加する後輩たちへのアドバイスという形で今回の全国大会を振り返っていききたいと思います。

最初に、すごい量の教材が送られて来ると思います。僕も結構驚きました。地方大会の問題はほとんどこの中から出るので全部覚えましょう！全国大会への出場が決まると、追加の教材や、記入しないといけない書類が送られて来ます。自己紹介のようなことを記入する紙は「参考にします」と書いてあるかもしれませんが、ホームページにそのまま載るのでちゃんと考えて書くことをお勧めします。僕はそれを知らずに書いて、恥ずかしい思いをしました。もう一つこの時点で重要なことは、地方大会を主催して頂いている地方銀行に優勝報告をすることです。地方大会の賞状や副賞、本番に流れる応援メッセージは全てスポンサーである地方銀行様が用意して下さいます。特にオンライン開催の場合は気を付けてください。これを怠ると他のチームはほとんど貰っている物を自分たちだけ貰えないという、かなり悲しい経験をする事になると思います。

さて、大会当日ですが、やはり他の高校のチームとの交流を大事にするのがいいと思います。特に、学校などでクイズの活動をしている人にはいい仲間がたくさん出来ると思います。後悔の無いように全力で楽しんでください！

最後に、このような経験をさせてくれた皆様、どうもありがとうございました。

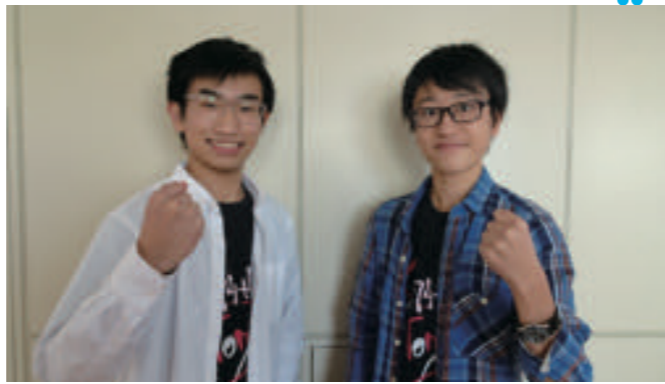




長野大会 12月5日(日)開催

八十二銀行

優勝チーム 長野県松本深志高等学校
「エコにエコノミー」
塩原 遼大・河西 俊太郎



主催 八十二銀行

参加校一覧

飯田女子高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県屋代高等学校、長野県上田高等学校、松本秀峰中等教育学校、佐久長聖高等学校

申し込みチーム数 16チーム (7校)

運営スタッフ感想

長野大会は今年で9回目を迎え、7校16チーム32名の高校生に出場していただきました。昨年に引き続きオンラインでの開催だったため、直接お会いできなかったことは残念でしたが、画面越しに高校生の皆さまの頑張りを見せ、楽しさを共有させていただきました。今大会は昨年に続いて参加した高校生や、先輩から大会を教してもらい参加した高校生が多く、エコノミクス甲子園の知名度・魅力が日々受け継がれていることを実感いたしました。また「すごく楽しかったです」、「来年もぜひ出たいです」という声をいただき、スタッフ一同大変嬉しく感じます。エコノミクス甲子園を通して、長野県の未来を担う高校生を今後も支援して参りたいと思います。参加いただいた高校生の皆さま、ご協力いただいた皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。



長野大会代表 長野県松本深志高等学校 1年

塩原 遼大

今回のエコノミクス甲子園は僕にとって、驚きの連続でした。事前教材が届いてページをめくったとき、知らない単語ばかりで驚き、何かよくわからないカードゲームに驚き、経済の本質を突くような事前ヒント交換クイズに驚き、さらには大会出場者の金融知力の高さに驚き...すべてのことが想像を超えていました。山のような事前教材は僕のような経済初心者にもわかるように説明が展開されており、内容がすんなり入ってきました。今までニュースで聞いていたことはこういうことだったのかと納得できたことも多く、楽しく勉強できました。事前のヒント交換クイズでは、騙されたふりをして情報をもらったり、居候して情報を入手したり、ポイントこそ集めませんでしたが、最終的にはヒント全部を集めて解答することに成功しました。他の参加者の皆さんのいろいろな戦術や策を見ることができて、とても楽しく興味深かったです。そして今回、一番新鮮だったのは、カードゲーム、「エコノミカ」愛好家の存在です。事前のエコノミカ大会やリハーサル終了後の対戦を通して、僕もその一員になりかけています。これほど楽しみながら、経済を学べるゲームがあるだろうかと本気で思うほどです。高校で友人に広めたいと思います。

そして全国大会当日。問題のレベルはあまりに高く、みなさんの知力には、とても太刀打ちできませんでした。また来年、この舞台に戻ってこられるように知識と見聞を深めていきたいと思っています。

最後になりますが、事前勉強会を開いてくださった、長野経済研究所の寺嶋さん、八十二銀行の皆様、僕たちが経済について興味を持って、このような舞台に立てたのも皆様のお陰です。また、コロナ禍の中、素晴らしい大会を運営してくださった金融知力普及協会のボランティアスタッフの皆様、そして、対戦してくれた高校生の皆さん、このような素晴らしい体験をさせていただき、本当にありがとうございました！！



長野大会代表 長野県松本深志高等学校 1年

河西 俊太郎

僕が今回のエコノミクス甲子園に参加したのは、幼馴染である相方に誘われたことがきっかけでした。「一緒に出ない?」と言われ、なんだか面白そうだなとあっさり参加を決めました。「エコにエコノミー」と少しだけふざけた名前をつけてしまったのもそのせいですが...でも、その時はまさかこんなに楽しく貴重な経験ができるとは思っていませんでした。特に楽しかったのは、全国大会までの一週間です。

本当にあっという間に過ぎていきました。ただ大会に参加するだけではなく、交流を兼ねた事前企画がありました。お互い自己紹介をしながら、持っているクイズのパーツを交換したり、同盟を結成したり、テキストだけでのやり取りでしたがそれだけで大会になると思うくらい楽しかったです。

そして大会の2日間を緊張と期待の気持ちで迎えます。どんな猛者がいるんだろう、皆ガチガチのクイズプレイヤーのかな、そんなことを思いながら参加しました。ですが、エコノミカ大会や敗者部屋を通して仲良くなった人たちは皆さん明るくてフレンドリーで、大会が終わった今でも交流を続けています。一方で全国大会で出されたクイズはとても難しく、1回戦は突破できたものの2回戦ではあっけなく負けてしまいました。その後のラウンドではそもそも問題文がわからないくらいの難題をあっさり解くチームを見て驚嘆していました。来年はもっと知識を蓄えてポストンを目指して戻ってきます。

最後に、こうしたイベントを通して得られるものは想像以上でした。それは単に勉強によって得られる金融知力だけではなく、普通に生きていれば出会わなかったであろう全国の高校生との交流や、さらには得た知識によって日頃のニュースも理解しやすくなりました。このエコノミクス甲子園を通して、自分の世界がより広がったように思います。来年もリベンジさせてください！ありがとうございました。





岐阜大会 12月12日(日)開催

十六銀行

優勝チーム 岐阜県立恵那高等学校
「熟練度4」
鈴木 望・渡辺 剛生

主催 十六銀行

参加校一覧

鶯谷高等学校、済美高等学校、岐阜県立恵那高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立岐阜北高等学校、岐阜県立大垣商業高等学校、岐阜東高等学校、大垣日本大学高等学校、多治見西高等学校

申し込みチーム数 17チーム (9校)

運営スタッフ感想

本年は9校17チームにご参加いただきました。

「集合」か「オンライン」どちらの形式で開催するか、11月末まで検討を重ねました。その結果、新型コロナウイルス感染症によって、友人たちとの思い出を作る機会が激減した高校生の皆さまに、是非本大会で早押しクイズにチャレンジするという珍しい経験や、チームメイトと戦略を考え、勝負を勝ち抜く貴重な体験などを通して、かけがえのない思い出を作っていただきたいとの想いから、「集合形式」での開催を決断いたしました。難問が続いた決勝ラウンドを、見事勝ち抜き全国大会への切符を手にしたのは、恵那高等学校2年生の「熟練度4」チームでした。参加者からは、「とても勉強になった」「面白かった」等の感想が多く寄せられ、スタッフ一同大変嬉しく感じております。最後になりましたが、岐阜大会開催にあたりご支援賜りました金融知力普及協会の皆さま、ご後援を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。



岐阜大会代表 岐阜県立恵那高等学校 2年
鈴木 望

学校の先生から紹介された事がエコ甲との出会いでした。最初はただただクイズしたいし、こうちゃんいるじゃん！みたいなノリで参加したのですが、運もあり、クイズや経済初心者であったにもかかわらず地方大会で優勝でき、全国大会に出場する事ができました。全国大会では、事前ラウンドから騙し騙されのとても白熱した戦いが繰り広げられていて、とっても楽しかったです。事前クイズはほとんど解けず、全国大会の大きな壁を実感しました。本番では自信満々に出した解答が微妙に違うなど、とても悔しい事があったのですが、全国のレベルが高い人たちとクイズを楽しめた事がとてもよかったです。今回間違えた問題は二度と忘れません笑。

ここからはエコ甲に参加するか迷ってる人向けにエコ甲の魅力を紹介しします。学校にクイズ同好会等がなく、クイズ好きだけどやる機会がない！って人にはとてもいい機会だと思います。地方大会ならば、現代社会の内容や常識問題のようなものを知っていて、事前学習教材で勉強すれば、意外といいところまで行けたりします。無料で参加したのに、優勝賞品やたくさんの教材を貰ったり、学校から表彰されたりで結構得しちゃったなんて感じもします笑。文系の推薦考えている人、結構使えるとかなんとか。もちろん、将来役立つ金融知力を身に付ける事もできます！そして何より、全国各地に友達ができちゃいます！！今でも数人とはラインを交換して、毎日のように話しています。全国大会出場者は、ボランティアスタッフになれて、大学に入った後も、その仲間たちとの交流が続くそうです。しかも、もしかしたらこうちゃんに直接お会いできるかもしれませんよ！迷っている人、是非是非参加しましょう！

最後になりましたが、エコ甲運営スタッフを始めとする金融知力普及協会の皆さん、とても有意義で楽しい大会を開催して頂きありがとうございました。大学生になったらスタッフとして会いましょう！

岐阜大会代表 岐阜県立恵那高等学校 2年
渡辺 剛生

エコノミクス甲子園を通して金融、経済の学習の楽しさを感じる事ができました。自分の高校では近頃3、4年ほどエコノミクス甲子園への参加はありませんが、大学へ進学したのちに経済学を学びたいと思っていながらあまり深く学んだことが無かったので今大会に参加することを決めました。地方大会も0からのスタートでしたが、配布された事前学習教材が分かりやすく楽しく勉強をすすめることが出

来ました。全国大会に向けての学習では配布される事前学習教材に加えて、自分たちでどのような問題が出題されるのかを予想して勉強したのもいい思い出です。大会中には待機部屋で普段関わることのできない全国の高校生たちと会話が出来て、敗者部屋では大会で負けてしまってもみんなでクイズをしたりと充実していました。大会としては1回戦で負けてしまいましたがこのような普段できない経験をすることが出来たので参加して良かったと思います。今大会を通してこれからこの大会参加する高校生にアドバイスするとすればこの大会で勝ち抜くための勉強法は新聞、本などでアンテナを広く持ち楽しく勉強することだと言えます。大会後に聞いた話によるとこの大会で出題される問題は毎年入れ替わる全国大会出場経験のあるボランティアの方々が作ってくださいます。なので必ず出題される分野といったものはありません。ですのでやはり高いアンテナを張って勉強することが大切だと思いました。最後になりますがお応援して下さいました十六銀行の皆様、そしてこのような大会を開催して下さいました金融知力普及協会の皆様には感謝しています。本当に有難うございました。





静岡大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 浜松学芸高等学校
「メタモン」
窪野 拓・岡田 寛也



主催 静岡銀行

参加校一覧

静岡雙葉高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立浜松商業高等学校、知徳高等学校、浜松学芸高等学校、島田樟誠高等学校、加藤学園暁秀高等学校

申し込みチーム数 25チーム (7校)

運営スタッフ感想

11回目を迎えた静岡大会には、25チーム50名の高校生がエントリーしてくれました。昨年に引き続き、オンライン開催となったのは残念でしたが、それでもオンラインだからこそ、自宅や学校などから参加することで、リラックスしながら楽しんでもらったのではないかと感じています。静岡大会を優勝した浜松学芸高校の「メタモン」は3年連続の優勝で、昨年の全国大会では準優勝という大活躍でした。きっと今年も意気込み十分で、静岡県代表として頑張ってくれるものと思います。静岡大会をともに戦った高校生の皆さんとともに応援しています。がんばれメタモン!!



静岡大会代表 浜松学芸高等学校 3年

窪野 拓

クイズの素晴らしい所は、知識に意味が付く所だと思う。どんなことをしていても「クイズに役立てる」という目的が追加されるのだ。実際に私もエコノミクス甲子園の対策において、日常生活から情報を抽出する作業を重要視した。その方が知識が定着しやすいと考えたからだ。消費税はどこに行くのか。オリンピックに勝つと賞金はいくら出るのか。診療報酬は一点あたりいくらなのか。無意識のうちにそんなことを考えるようになった。気が付けば新聞の内容が容易く理解できるようになり、ますます経済への興味が深まった。その結果、大した目標もなく高校に入学した少年は、卒業式前々日までエコ甲優勝という目標を追い続けることができた。私にとってエコ甲は、(たかだか18年だが)これまでの人生で最も真剣に打ち込むことができた事柄であると言える。

エコ甲の理念は楽しみながら金融や経済を学ぶことにあるそうだ。少なくとも私の出場した3年間、その理念は確実に実行されていた。

4月から私は経済学部に進学する。エコ甲に出ていなければこの選択は取らなかったと思う。良いか悪いかはこれからだが、私の人生に変化をもたらしたことは間違いない。スタッフをやるかは置いておいて、将来はエコ甲の更なる発展に寄与したい。これもエコ甲が私にもたらしてくれた目標だ。

最後に、全国への機会を用意して下さった静岡銀行さん、素晴らしいライバルと引き合わせてくれた他地方の銀行さん、コロナ禍でもエコ甲の歴史を止めることなく開催して下さった運営のみなさんに、富士山より高く浜名湖より大きな感謝を申し上げます。ありがとうございました。



静岡大会代表 浜松学芸高等学校 1年

岡田 寛也

相手である先輩はすごい人だ。浜松学芸がエコノミクス甲子園の全国大会に出るきっかけを作った人でありながら、そこから3年も連続して出場し、去年は準優勝までした。だからこそ、僕にかかるプレッシャーは大きかった。

なんとかしてついていかなければと、先輩と相談しながら、先輩が足りていないであろう所をおさえることに必死だった。だからこそ、地方大会を突破できた時は、嬉しさももちろんだが、安堵の感情が一番最初に湧いてきた。

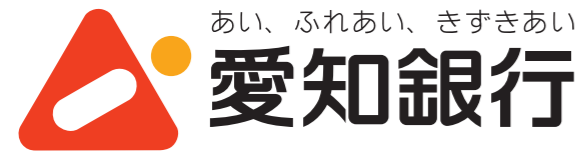
そんな中で迎えた全国大会は、何もかもが新しく、上手く周りが見られなかった。そんな時にも落ち着いていたのが、先輩だった。やはり昨年準優勝は違うなと、改めて感じた。それもあってか、1回戦は少し落ち着いた状態で臨むことができた。1問目を取って、2問目。「診療報酬は1点何円で計算される?」あそこで勝負に行けるほど、自分の知識は強くなかった。結局、そこで単独正解を許し、そのままテンポを持っていかれてしまった。5問目、なんとか単独正解できないか...!と、祈るばかりだったが、現実是非情であった。全国大会に出る高校は、どれも強豪ばかり。最後までしっかり取ってきた。結局そのまま敗戦してしまった。最後の、勝負すべきだったと言った僕のコメントを拾ってくれたこうちゃんが言った言葉が全てだと思う。

「仙台二華がちゃんと5問知っていたのがすごかった」たった1問、されど1問。「10円」が、重すぎた。僕にはまだ時間がある。悔しさは糧になる。ここで1回戦負けを経験出来たのは、絶対に財産になる。そう信じている。3年生で、出場者の中でも最も経験がある先輩と勝ち上がれなかったのは残念だったが、僕にはこのバトンを引き継いでいく義務がある。先輩が作った連続出場記録を途絶えさせずに、またここに戻ってくる。絶対に借りを返す。「10円」を返済する。今からまた、チャレンジャーだ。





愛知大会 12月12日(日)開催



優勝チーム 名古屋大学教育学部附属高等学校
「アノマリー」
中島 遼太・田島 暖大



主催 愛知銀行

参加校一覧

愛知県立豊丘高等学校、愛知県立半田商業高等学校、愛知県立刈谷高等学校、愛知啓成高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校

申し込みチーム数 14チーム (5校)

運営スタッフ感想

愛知大会は前回に続き今回もオンライン開催となりましたが、当日は大変白熱した展開となりました。ご当地の小論文クイズにも、各チームがさまざまな着眼点から論述されており、大変驚きました。このエコノミクス甲子園での経験は必ず参加者の皆さんの今後の人生に生きてくると思います。優勝したアノマリーチームのお二人にとっても、惜しくも敗れてしまったチームの皆さんにとっても、この大会が思い出に残るものとなっていれば幸いです。次回もより多くの高校生の皆さんにご参加いただければと思います。



愛知大会代表 名古屋大学教育学部附属高等学校 2年
中島 遼太

エコノミクス甲子園(以下、エコ甲とする)に対する批判のひとつとして「クイズの一问一答では本当の金融知識は身につかないのでは無いか」というものがある。エコ甲を経験するまでは私もその考え方に同意であった。金融分野の知識を高校生がつけても役には立たないだろうと。

そんな私がエコ甲にエントリーしたのはクイズ研究会に所属していたので一応参加してみるか、という情性であった。そんな私でも、地元強豪校の不参加も手伝い全国大会に出場できることが決まるといい気になり勉強をしてみようという気が起きた。そこでYouTubeに上がっているエコ甲全国大会のアーカイブを全て見てみると難問揃いでその時の自分では2、3問も解ける気がしなかった。そこからはall for victoryの精神で購読していた日経新聞や証券会社がホームページ上で公開している辞書にある単語の中で分からないものを全て覚えた。このような勉強の結果、我々は準決勝まで進出し、第3位という好順位にありつけた。直接的な敗因となった問題も、推測力を生かすものでの選択ミスだったため後悔はなかった。大会後はた、と気づいたことがある。それは日経新聞が以前よりも読みやすくなっていたのだ。勉強を始めた大会一週間前と比べ分からない単語が減ったばかりか、ある出来事が起こった時にそれが社会にどう言った影響を及ぼすのかも理解できるようになっていた。エコ甲が終わって2週間ほどが経過した現在でも私は毎日楽しく日経新聞をよめている。この経験を通してわかったことは鍵となる単語を覚えることは全体理解に繋がるということだ。わざわざ名前をつける事柄や法則にはその分野の考え方を端的に説明しているものが多い。私は文頭に書いた意見に対し自分自身の経験によって反駁を加えることが出来たのである。

文末にはなったがこのような経験を与えてくださった金融知力普及協会様、スポンサー様、応援して下さった愛知銀行の皆様に厚くお礼をもうしあげたい。



愛知大会代表 名古屋大学教育学部附属高等学校 2年
田島 暖大

中島に誘われて出場した今大会はコロナウイルスの拡大に伴いオンラインでの開催であった。当初は全国大会出場することなど夢にも思わず、全国出場が決まった際には2人して目を疑った。にわかには信じがたいことであった。そのようなはっきりとしない気持ちのまま過ごしていたところ、愛知銀行の方がお見えになった。家で受け取った賞状を保管していると全国大会出場の切符を手にしたのだと自覚し、緊張と現実感に襲われた。そしてその緊張感の消えぬまま迎えた本番、画面越しでも緊張し、実力を発揮できるのかと不安でたまらなかった。東京開催であったのなら、その緊張は表に現れていただろう。1回戦、2回戦ともに切羽詰まった試合で私は気が気でなかった。そして準決勝、両者2問とも正解と言った中、我々は第3問目「北海道のGNPに近い国はどこか」という問に対して正解を選ぶことが出来なかった。そしてそのまま両者正解を重ね、結果として敗退してしまった。優勝準優勝の地位に立てなかったことがとても悔しく思われた。このようにして私たちがのエコノミクス甲子園は幕を閉じた。

終わってから思い返すと、今大会得られたものは非常に大きかったとおもう。切磋琢磨した友人たちや、全国に対して備えた金融知力などである。私は今回得られたこの友人たちと競い合うと共に、様々な方が仰っていたが、知識を知恵として活用していきたいと思う。そしてこれからの変革の時代に遅れることなく立ち向かっていきたい。最後に、金融知力を蓄えさせていただいたエコノミクス甲子園関係者各位と今大会に出場し競い合った各チームのメンバーの皆様、そして相手である中島への感謝をここに示したい。





三重大会 12月19日(日)開催

百五銀行 FRONTIER BANKING

優勝チーム 高田高等学校
「チーム専修寺」
佐藤 大起・荻田 快登



主催 百五銀行

参加校一覧

高田高等学校、桜丘高等学校、暁高等学校、学法津田学園高等学校、三重県立津商業高等学校、三重県立桑名高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立伊勢高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校

申し込みチーム数 12チーム(9校)

運営スタッフ感想

昨年に続いてオンラインでの開催となりましたが、各チーム優勝を目指して真剣な戦いが繰り広げられたと思います。見事優勝された「チーム専修寺」のお二人には、三重県代表チーム初となる全国大会優勝を目指して頑張してほしいと思います。応援しています！



三重大会代表 高田高等学校 1年

佐藤 大起

私は今回エコノミクス甲子園に出場したことを通して皆さんのことを学ぶことができました。

まず一つ目は全国の高いレベルを知ることができ、今まで自分が持っていた知識が如何に偏っていたかということに気付くことができたことです。「井の中の蛙」であった自分が大会に参加し、大海の大きさを知ることができました。

そして二つ目は自分が知らなかった経済に関する知識を沢山身につけることができたことです。いままで自分一人で経済について勉強をしようとしても、きっかけがなくあまり長続きしませんでした。ですが、今回エコノミクス甲子園に出場させていただいたことをきっかけにして全国大会という目標に向かって経済の勉強ができました。

他には、普段会うことができない他県在住の他校の高校生と出会うことができたことです。中には経済について興味がある人や友人に誘われて出場した人など沢山の人が居ましたがその沢山の人とコミュニケーションをし、お互い全力で同じ目標に向かって戦うことができとても意義深い日々でした。

大会の事前ラウンドであるヒント交換クイズでは初動や全体的な作戦を間違えてしまい散々な目に遭いましたが、ゲームを通し色々な人とコミュニケーションができてよかったです。そして本戦ラウンドでは惜しくも初戦敗退という結果になってしまいましたが、今回解答出来なかった問題は今後絶対に忘れることがないと思います。

このように今回の大会を通して沢山のことを得られたと思っています。来年こそは今年と同じように初戦敗退ではなく全国で優勝を狙えるように頑張りたいと思います。

最後になりましたが、企画や運営に携わってくださった皆様へ心からお礼を申し上げます。



三重大会代表 高田高等学校 1年

荻田 快登

スタバから参戦して地方大会を制し、迎えた全国大会。事前第1ラウンドのヒント交換クイズでは、1番多くポイントを賭けた問題を不正解してしまったことが悔やまれる。文のパーツのうち、重要なものを全て埋めきることができなかった問題に高額BETするのは、思い返せばかなりリスクな行為であったと反省させられた。また、他校からのメッセージをHTMLを弄って書き換え、そのスクリーンショットを晒し上げ、他校の信用を地に墮とすという、我ながら下の下の下のような作戦を考えた(相方に止められた)が、これも今思えば、あんな不正術を考えている暇があったら、対策していた方が絶対に有意義であった。

そして迎えた全国大会1日目、事前第2ラウンドの早押し4択クイズで絶望させられた。地方大会とは難易度が段違いだった。まるで歯が立たない。事前ラウンド総合の順位は、36チーム中24位であった。慌てて一夜漬けて知識を詰め込んだが、そんなもので勝ち抜ける程、エコノミクス甲子園は甘くない。結果、本戦で初戦敗退の屈辱を味わった。当然である。元から持ち合わせていた知識とほどほどの対策のみで、何故勝てるだろうか。

こんな不甲斐ない結果を残してしまい、百五銀行様には…いや、それだけではなく、三重大会を優勝した際に出演させて頂いた三重テレビ様にも、そこで激励の言葉を掛けて頂いた方々にも、顔向けができない。「少しでも爪痕を残す」と三重テレビ様の生放送で言っておきながらこの有様とは、本当に情けなく感じる。

さて、反省と後悔の言葉の多い文章となったが、来年度にも全国大会に出場できる機会があれば、この文章をポジティブな言葉で埋め尽くせるように、今の内から、事前学習教材を読み漁ったり、新聞を読んだりする等、対策を進めておきたい。

追伸: エコノミカの絵柄可愛すぎんか





京都大会 12月12日(日)開催

京都銀行

優勝チーム 洛南高等学校
「洛南高校」
長谷川 舞・飯塚 紘己



主催 京都銀行

参加校一覧

花園高等学校、立命館高等学校、洛南高等学校、同志社高等学校、京都府立福知山高等学校、京都府立洛北高等学校、京都府立桃山高等学校、京都府立東舞鶴高等学校、京都市立西京高等学校

申し込みチーム数 11チーム(9校)

運営スタッフ感想

初めてのオンライン開催でしたが、参加いただいた高校生の皆さんに楽しんでいただくことができよかったです。オンラインは通信環境面で不安もありましたが、配信も途切れることなく全チーム最後までしっかり参加いただけたのでほっとしました。

優勝チームの2人には、是非とも全国大会で結果を残していただきたいと思います。



京都大会代表 洛南高等学校 1年

長谷川 舞

臼井さん最高!!...と、この感想文の一文目を書くように臼井さんに言われたので書いたのですが、実際、誘導部屋の臼井さんや赤井さんをはじめとしたスタッフの皆さんのおかげで2日間のエコ甲を楽しむことができました。まず大会を運営して下さった方々に感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

京都大会では、期末考査の直後だったこともあって十分に準備ができておらず全くと言っていいほど自信はなかったのですが、相方との分担作戦が上手くいったのか運が味方についてくれたのか、洛北チームと1点差という大接戦を制することができました。正直、まさか優勝できるとは思っていませんでした。嬉しさより驚きのほうが大きかったくらいです。後から考えれば、直前の付け焼き刃でそれなりの結果が出てしまったために全国大会も何とかなるだろうという淡い期待を抱いてしまったのかもしれません(もちろんその淡い期待は全国大会で出会った猛者たちの前に華々しく打ち砕かれた訳ですが)。

事前ラウンドはヒント交換クイズ、早押しともに満足のいく結果を残せず、周りの圧倒的な知識量と考え抜かれた戦略に改めて全国という場のレベルの高さを感じました。

誘導部屋では、1日目はエコノミカで盛り上がり、岡山白陵や並木中等の方とリラックスした雰囲気でお話しましたが、2日目の本番直前にもなると緊張と不安でいっぱいでした。でも、臼井さんが「大丈夫!」と明るく励まして下さって、少し気が楽になりました。やっぱり臼井さん最高です(笑)。第一ラウンドは同点からの事前順位の差で敗退となりましたが、単独正解を取ることができたのは嬉しかったです。敗者部屋でもレベルの高さを思わせる会話が続きいたり、大喜利回答にみんなで笑ったりと、楽しい時間を過ごせました。

エコ甲全国大会に出場したことで、金融経済の知識と理解が身についただけでなく、他校の様々なバックグラウンドを持った人と交流できる良いきっかけにもなりました。大



会後も SNS 等を通じて交流は続いています。日本中の同じ分野に興味を持つ仲間と出会うという貴重な体験は、エコ甲だからこそ得られたものだと思います。

最後に、京都大会を主催し全国大会でも応援して下さった京都銀行さん、一緒に頑張ってくれた相方の飯塚君、参加場所の確保など様々な面でサポートして下さった担任のN先生とS先生、昨年度の経済の授業を通して経済の面白さを教えて下さったK先生、当日のライブ配信を見て応援して下さった先生方と温かい励ましの言葉をくれた友人たちへの感謝の念、それから、来年も絶対この全国大会に戻ってきてもっと上を目指すぞという闘志を胸に抱きつつ感想文を締めくくろうと思います。

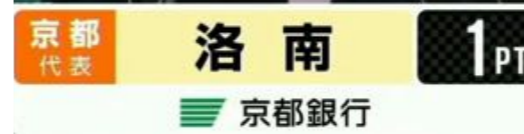
京都大会代表 洛南高等学校 1年

飯塚 紘己

今回、エコノミクス甲子園に出場したのは、僕が経済学部志望だということで誘ってもらい、興味をもったからなのですが、僕自身それほど金融や経済に対して知識があったわけではなく、今大会がきっかけとなって非常に多くの知識を学べたと思います。事前学習テキストが、ただの知識にとどまらず、資金運用など実用的な面でも応用できる深い内容だったため特に参加してよかったと思いました。

また、エコノミクス甲子園の魅力として、全国の多種多様なバックグラウンドを持った人と関われるという点がありました。エコノミカ大会や、控え室、または、これは僕たちのチームの敗因でもあったわけなのですが事前ラウンド、というのでは特に他校の人と大いに交流を深めるきっかけとなり、いい経験ができたと思います。また、大会当日は、初出場の上にクイズというものに対しても経験がほとんどなかったために緊張もありましたが、エコノミクス甲子園スタッフの方々の作り出す良い雰囲気、大会を通して楽しむことができたと感じています。せっかくの決勝出場で、得た権利なので、自分もいつかエコノミクス甲子園スタッフを務めたいと思っています。

来年も出場するかは決めていませんが、僕はまだまだ知識不足、対策不足なところがあったので出場するならば、次こそ優勝をめざして取り組みたいです。そうでなくとも、金融、経済は社会の中で欠かせない知識であろうし、自分の興味のある分野なので、これを機にこれからも自分の知識を深めつつ、世の中に目を向けていきたいと思っています。

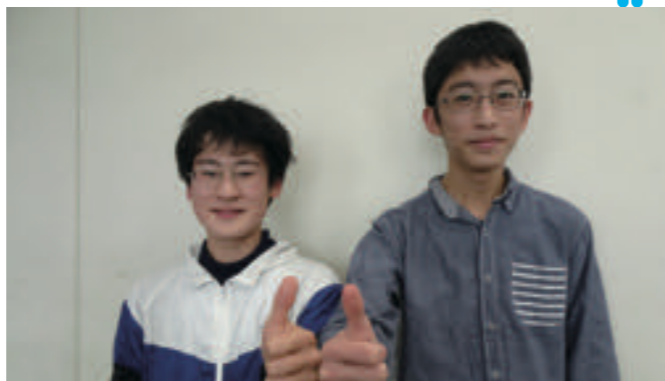




奈良大会 12月12日(日)開催

NANTO 南都銀行

優勝チーム 東大寺学園高等学校
「あをによし」
森川 文博・金田 夏輝



主催 南都銀行

参加校一覧

東大寺学園高等学校、智辯学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、奈良県立青翔高等学校、奈良県立山辺高等学校、奈良県立奈良高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校、天理高等学校

申し込みチーム数 14チーム(9校)

運営スタッフ感想

コロナ禍の終息が見通せずオンライン開催となりましたが、出場者の皆さんが勉強して臨んでくれていることが、画面越しにも伝わってきました。



奈良大会代表 東大寺学園高等学校 1年

森川 文博

私がエコノミクス甲子園で得たもの、感じたものは主に2つあります。

私が得たものは金融に関する知識です。地方大会、全国大会で送られてきた冊子の情報量は、目を見張るほどありました。全国大会が学年末試験直前だったこともあり、学校の勉強との両立に苦戦。試験の点数に戦々恐々として事前教材を読みました。しかし保険から投資まで様々な情報を吸収したことは、自分の人生にとってプラスになったと思います。

18歳成人が近づいており、契約に関する知識など自分を守る知識も、エコノミクス甲子園をきっかけに学びました。投資についての知識という将来の資産形成にかかわる大事なことも得ることができました。

エコノミクス甲子園の勉強から派生して、読むことのなかった経済にかかわる本もいくつか読みました。経済指標や、経済統計を読み解く力も少しついて、日々の生活の視点に「経済」が加わりました。

エコノミクス甲子園は自分の知識と考えの幅を広げるとてもいい機会となりました。それと同時に、自分の経済知識のなさを痛感しました。全国大会の問題の答えは知らない単語ばかりで、もっと経済の知識を深めたくなりました。

私が感じたことは交渉の難しさです。事前第一ラウンドのヒント交換クイズは交渉のいい練習になりました。はじめはルールがあまりよくわからず戸惑いました。しかし、Google Spreadsheetを使って情報を整理するための書類を作成し、何とか乗り切ることができました。そして、ヒント購入の価格交渉はもちろん、ヒント交換の際の交渉も、相手の許容ラインを探りつつ自分に有利な条件に持つていくことが大変でした。大変でしたが、苦労した分、答えがわかった時の達成感は大きかったです。自分で工夫して交渉するという貴重な経験を若い時にできて、経験が自分の糧になったように感じました。

交渉に関して、灘高校の手腕には驚愕しました。初期ポイ



ントを、限られたパイの中で2倍以上に増やしたことに脱帽しました。

最後に、エコノミクス甲子園に出場して本当にいい経験を積むことができました。エコノミクス甲子園関係者の皆様、ほかのすべての出場者の方々、相方、相方のご両親、私の家族には、このような機会を与えてくださったことに感謝いたします。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校 1年

金田 夏輝

僕が最初エコノミクス甲子園のことを知ったのは、学校の学年掲示板に張られていた小さなポスターからでした。「事前学習教材が無料でもらえます」「参加無料！」それを見て急に参加しようかなという気になったのでした。

二人でチームを組むのだと知り、友達を誘いました。出ることは決めたもののなかなか申込をしない僕に業を煮やし、結局相方が申込をしました。

地方大会はオンラインとのことでした。僕の半ば押し付けのような提案により、僕の家でやることに決まりました。もちろんこれは移動が面倒だと思ったからです。僕は地方大会について、珍しく友達が自分の家に遊びに来るのだ、と思っていました。それほど僕は軽い気持ちで参加しました。結局、せっかくいただいた事前学習教材はその一部を眺めたのみで、地方大会が始まりました。

しかし、僕の相方は僕と違って真面目で成績優秀な人間でした。中学の公民の授業で得た知識（僕は右から入り左から抜けていったもの）も駆使し、結果高校二年生もなぞ倒して代表となってしまったのです。ちなみに相方が問題の九割五分を答えました。

さて、代表となったからには勉強しなければならぬ、勉強するぞ——そう決心したのも束の間、これが僕の悲しい性、あれやこれやと口実を作り、元の木阿弥です。

全国大会はやはり相方に頼り切りでした。彼は大変真面目に取り組み、図書館から金融や経済の本を借りて読んでいました。確かに彼は全国に伍して戦えていましたが、運と彼の相方が悪く、負けました。

彼は不完全燃焼だったでしょうし、僕には燃焼する知識すらありませんでした。全国大会では僕のヤマ勘は全く通用しませんでした（地方大会もですが）。しかし僕としては楽しかったです。高い金融知力を持つ同世代を見るとともに、お喋りしたりするというのは。

来年は、もっと勉強します。必ず。

相方に捨てられないように——





岡山大会 12月12日(日)開催

中国銀行

優勝チーム 岡山白陵高等学校
「キングとポッター」
堀井 沙綾・矢吹 優芽



主催 中国銀行

参加校一覧

明誠学院高等学校、岡山県立岡山東商業高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山県立倉敷南高等学校、岡山白陵高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山商科大学附属高等学校

申し込みチーム数 19チーム(8校)

運営スタッフ感想

コロナ禍のため、岡山大会はオンラインでの開催となりました。

初めてエコノミクス甲子園を担当しましたが、高校生たちの頑張りに圧倒されました。



岡山大会代表 岡山白陵高等学校 2年

堀井 沙綾

私は今、エコノミクス甲子園に出てよかったという気持ちでいっぱいです。今年で二年連続の全国大会出場にもかかわらず、結果はどちらも1回戦で敗退というふがいのないものだったのですが、その悔しさなどほとんど残っていないほどです。

一番の理由は、経済について、まだまだ基礎だけではありませんが、勉強する機会を得られたからです。元々私は経済に関して全くの無知で、エコ甲がなければ勉強しようと思うこともなかったと思います。しかし、エコ甲に出たことで経済の基礎知識を身につけることができ、以前なら聞き流していたニュースにもふと注目するようになるなど、世の中の見方が少し変わりました。これからも経済に興味をもち続け、様々な視点で世の中と向き合える大人になりたいです。

また、様々な人とつながりを持ったり深めたりできたことも出てよかった理由の一つです。全国大会というのは、全国の同じように勉強してきた人たちと交流できる絶好の場です。経済用語でふざけて笑い合えるような空間は、他にはなかなかありません。また、もともと親友だった相手とも、大会に向けた勉強などを通して、より仲を深められたと感じています。

最後になりますが、エコ甲はとにかく楽しかったです。このような貴重な体験をさせていただけたのも、関係者の皆様のご尽力のおかげです。本当にありがとうございました。



岡山大会代表 岡山白陵高等学校 2年

矢吹 優芽

悔しくも初戦で敗者部屋行きとなってしまった1年前。あの悔しさを胸に、今年も再びエコノミクス甲子園に参加しました。

今年は2年目の出場ということもあり、地方大会優勝が決まってからは本気で全国大会への勉強に取り組みました。学校から帰宅したあとの時間はほぼ経済の勉強へと注ぎ込み、休みの日も時間が合えば相手と集まって一緒に勉強会をしました。「優勝したい」その一心で勉強した日々は、今思い返してみても、かなり充実した日々だったと思います。そして迎えた事前ラウンド。第1ラウンドでは比較的楽な立ち回りでピースを集めることができ、また第2ラウンドでも、勉強した成果を発揮することができ、事前順位では去年より3位高い、3位という結果を出すことができました。しかし、全国大会本番では、今年も去年同様に初戦敗退でした。実力、運、優勝したいという気持ち、その全てがうまくかみ合わさった時、初めて手にすることができるもの、それが優勝なんだ、と、全国大会という場の厳しさを目の当たりにして、これ以上ない悔しさを感じました。

結果として優勝はできませんでしたが、優勝という夢に向かって相手と勉強した日々、この大会を通じて出会った人々、身につけた金融知力、これら全てが私にとっての大きな財産となったと思います。コロナ禍で何もかもがなくなってしまった高校生活に彩りを添えたい、そんな軽い気持ちで相手を誘った1年前は、エコノミクス甲子園が私にとってこんなにも印象深い大会になるとは思っていませんでしたが、あの時思い立ってエコノミクス甲子園に参加して本当に良かったと思っています。

最後になりますが、この大会を主催してくださった金融知力普及協会の皆様及びスタッフの皆様、応援動画等で支えてくださった中国銀行の皆様、対戦してくれた高校生の皆さん、そして、この大会と一緒に挑戦してくれた堀井さん、本当にありがとうございました。





広島大会 11月14日(日)開催



もみじ銀行

優勝チーム 広島県立広島高等学校
「ひよこシャフト」
下久 晃・太尾田 誠人



主催 もみじ銀行

参加校一覧

近畿大学附属広島高等学校 福山校、近畿大学附属広島高等学校 東広島校、広陵高等学校、広島県立総合技術高等学校、広島県立広島高等学校、広島県立広島国泰寺高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島市立基町高等学校、広島学院高等学校、AICJ 高等学校

申し込みチーム数 20チーム(11校)

運営スタッフ感想

広島大会は、11校20チームの参加がありました。参加してくれた高校生の皆さん、ありがとうございました。

コロナ禍で昨年に続きオンライン大会となり、直接皆さんの戦いを目の前で見ることができず残念に思いましたが、高校生の皆さんが金融経済に興味を持っていただき、今後の皆さんの将来に役立つことができました。

『ひよこシャフト』チームの下久君、太尾田君おめでとうございます。全国大会では、広島大会代表として優勝を目指して頑張ってください。オンライン大会ではありますが、他県の代表の高校生との交流も楽しんでください。

来年こそ、もみじ銀行本店ホールで開催し、高校生の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

広島大会代表 広島県立広島高等学校 2年

下久 晃

エコノミクス甲子園での経験は私に野心的な姿勢をもたらしたと考えています。私がエコノミクス甲子園で得たことは大きく2つあります。

1つ目は、自分が興味のある事象の探究に挑戦することです。私は去年に引き続きエコノミクス甲子園に参加しました。もちろん、エコノミクス甲子園に出場するにあたり、経済の勉強はしましたが、その周辺知識を得るために、昨年から今年にかけて数学やプログラミングなどを通して経済を理論的に把握することに努めました。その期間の勉強は、自分が本当に得たいと思った知識を得るための手段であり、とても有意義であったと考えています。さらに、これから勉強したいと思う事柄も発見することができ、エコノミクス甲子園が与えてくれたものの大きさを実感できました。2つ目は将来への見通しです。1つ目の内容と重なる部分がありますが、将来大学で学びたいことを決定することができました。経済と直接関係する領域の学問ではないものの、エコノミクス甲子園で培った能力を駆使して研究を進めていくような魅力的なフロンティアに現在心惹かれています。また、金融知力普及協会に所属してエコノミクス甲子園を発展させたいことなどさまざまなことに思いを巡らせる良い機会をいただきました。

これらのことを考えると、エコノミクス甲子園は私にとって大変価値がある大会でした。このような機会を享受できたことに感謝し、これからも自分自身を発展させていきたいと考えています。



広島大会代表 広島県立広島高等学校 2年

太尾田 誠人

私は三年前の第十四回大会を現地で観戦した。クイズ研究会や特別なグループには参加してこなかったが、自分もクイズプレイヤーとしてあの場に立ちたいという思いに駆られ、下久に声を掛けてひよこシャフト(チーム名)を発足。まだ十五回大会の参加応募も始まっていない、参加条件すら満たしていない中学三年の冬だった。

純粋にクイズが好きだっただけの私は、まさか二年連続で広島大会を勝ち抜き、全国の舞台に本当に上がれるとは思ってこなかったが、金融や経済について深く学んでいく中で自分のなかに積み上げられていく知識とそれによって作られる新しい世界に触れることが何よりも楽しかった。私たちがエコノミクス甲子園に参加するのは今回が最後かもしれないが、金融知力を身に付けてより高度な学びに挑戦していくことはこれからも続けていきたいと考える。

また、昨年から面識のあるチームと再会したり、エコ甲がなければ交流がなかったであろう高校生達と話をすることができたのはかけがえのない時間となった。スタッフの方も私たちのことを覚えてくださっていて少し感動した。大会を通して培った経験と人の輪を大切に、これからの人生に生かしていきたい。ぜひ、次回は「作る」側で。





山口大会 11月14日(日)開催



優勝チーム 慶進高等学校
「チンパンジャーヤ」
密山 莉生・田邊 皓一



主催 山口銀行

参加校一覧

慶進高等学校、山口県立防府商工高等学校、山口県立西京高等学校、山口県立萩商工高等学校、山口県立柳井高等学校、山口県立岩国高等学校、山口県立山口高等学校、宇部フロンティア大学付属香川高等学校、下関市立下関商業高等学校

申し込みチーム数 14チーム(9校)

運営スタッフ感想

当日は運営お疲れ様でした。

普段触れる機会の少ない「金融」という分野に対し、意欲的に知識を付けようという学生さんの意識の高さに感銘を受けました。

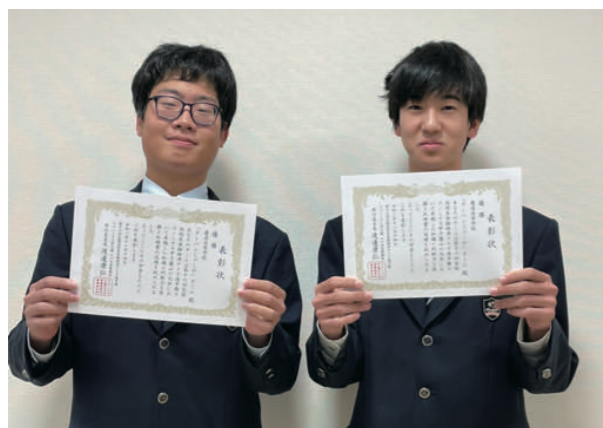
大変意義ある取り組みだと思いますので引き続き宜しくお願い致します。

山口大会代表 慶進高等学校 2年

密山 莉生

私ははじめは山口県大会すら通過できないと思っていました。ですが最終的には全国大会1回戦通過という成績を残すことができた事は本当に奇跡だと思います。我が高校、慶進としてはエコノミクス甲子園全国大会という場は初めての経験ということでしたので先駆者が当然いなかったのが大会の対策というのはとても苦労しました。しかしながら相方と協力して対策できリラックスして試合に挑めた事が今回の思いもよらなかった結果に繋がったと思います。私は全国で2回戦を闘えるとは思っていませんでした。ですので、実際満足している部分も大きく有ります。しかしこの舞台を経験したからこそ準決勝、更には決勝という物を身近に感じ悔しい部分、まだ満足できていない部分も多く生まれてきました。ですので、今年の事は今年としっかり割り切りつつ来年は受験生となる訳ですが今回味わった悔いを晴らすべく来年も山口県予選で優勝し今度こそ、全国優勝の舞台を経験したいと思います。

主催者ならびに後援者をはじめとするスタッフの皆様には大変お世話になりました。また来年も宜しくお願い致します。



山口大会代表 慶進高等学校 2年

田邊 皓一

私は慶進高校、山口県代表として金融知力普及協会が主催するエコノミクス甲子園に出場した。この大会を通して今まではあまり知らなかった経済についての知識を得ることができた。具体的には、保険について詳しく知ることができた。保険について学習した時、その種類の多さにとっても驚いた。外貨建て保険など自分の知らなかった保険について知れた。リビングニーズ特約は1992年に「最期まで尊厳ある生活を」という願いを込めてできたのもそうだが、人間が長生きする現代において尊厳のある最期を求める需要があるのだと痛感した。全国大会で印象に残ったのは、ディスカッションの時間に各高校の方とエコノミカという経済に関するカードゲームをしたことだ。特に金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高校の方が非常に良いプレーをされていた。金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高校の方とは第二ラウンドで対決した。第二ラウンド敗退となったのは残念だったが、このエコノミクス甲子園は自分にとって知らなかったことを学習できたとても良い機会だったと思う。





徳島大会 12月11日(土)開催



優勝チーム 徳島県立城東高等学校
「人々文々」
大久保 杏咲・中村 悠実



主催 阿波銀行

参加校一覧

阿南工業高等専門学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立徳島北高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城内高等学校、徳島市立高等学校

申し込みチーム数 9チーム(6校)

運営スタッフ感想

こちらの急な依頼にも、迅速にご対応いただき、大変助かりました。

ありがとうございました。



徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 3年

大久保 杏咲

今年のエコノミクス甲子園は、3年間出場した中で一番思い入れ深く、学び多き大会となりました。受験勉強との兼ね合いから出場するか悩んだ時期もありました。けれど、去年の悔しさを胸に出場を決意しました。「ほかの人とは出たくない」と言って相方を説得し、3度目の挑戦。結果は初戦敗退と悔しいものに終わってしまいましたが、その結果以上に多くのものを得ることができました。

まずは、2つの物事を両立することの大変さです。受験勉強の合間を縫って資料を集めたり、事前学習教材に目を通したりするのは容易ではありませんでした。やりたい、と自分で始めたにも関わらず、当初の計画を遂行できないままに当日を迎えてしまいました。本番で力を発揮できなかった悔しさを心に留めて、これからの人生の様々なところで準備不足や努力不足に陥らないように役立てていきたいと思えます。

そして、この大会で得た最大のものは仲間です。私は事前第一ラウンドのヒント交換クイズで常にゲームの最適解を選択して行動した結果、様々なチームを欺くことになりました。その罪悪感に見舞われながらリハーサルの日、騙してきたことを他のチームに伝えたところ、私の予想とは裏腹に誰にも責められないどころか、みんなが快く受け入れてくれました。敗者ルームは団欒とした雰囲気、高尚な大喜利を披露したり、クイズを楽しんだり、エコノミカの本対戦場となったり……、「時よ止まれ」と願うほど、素敵なひと時を過ごせました。大会を通して私は、夢を語れば応援してくれる、そんなとても素晴らしい仲間ができました。3年目、出場を諦めないで良かったと胸を張って言えます。最後になりましたが、人生に必要な金融知力と普段はできない様々な経験、そして大切な仲間を得ることができる、このような素晴らしい大会を開催して頂きありがとうございます。大会運営に関わった全ての皆様、そしてエコノミクス甲子園で出会った仲間たち、そして何より、3年間共に出場してくれた大好きな相方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



徳島大会代表 徳島県立城東高等学校 3年

中村 悠実

3年間エコノミクス甲子園に挑戦してきましたが、今年は特に印象深い大会だったと感じています。今大会で得たものはたくさんありますが、ここでは2つだけ挙げようと思います。

まず、1つ目は知識です。初戦敗退ではありましたが、エコノミクス甲子園に向けて事前教材を用いて勉強し、新聞やニュースにアンテナを広く張って得た経済の知識は、私にとってかけがえのない財産だと感じています。普段何気なく生活しているだけでは決して得られない知識が得られました。

2つ目は、仲間です。私は大学入試を全国大会前日に受験したため、事前ラウンドに一切参加することができず、ほぼ誰も知らない状態で全国大会当日を迎えました。事前ラウンドを戦い、既に来上がったコミュニティに入っていくことに不安を抱えていましたが、みんなは優しく接してくれ私の不安を吹き飛ばしてくれました。リハーサル時も敗者部屋もとても楽しかったです。エコノミカをしたり、問題を解いたり、大喜利をしたり……、本当に楽しく時間が経つのがあっという間に感じました。それもこれも全てエコノミクス甲子園で出会った仲間のおかげだと思います。また、全国大会が終わってから数週間が経ちますが、今も連絡を取り合っています。

ここまで知識と仲間の2つについて書いてきましたが、私が今大会で得た最大のものは「大久保」という最高の友達だと思っています。おそらく、大会はそれを目的にしていますが、この思いは私の中で揺るぎません。元々仲はよかったです。夏休みに参加しないかと誘われた時、受験があるため渋った私に普段クールな大久保が「ゆみ(私)と以外出るつもりはない」と熱い言葉をかけてくれた日のことは忘れられません。本当に本当に嬉しかった。3年間一緒に出て、全国大会に行けて本当によかった。ありがとう。最後に、このような多くのものを得られる機会を与えてくださった運営の皆様、関係者の皆様に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。





香川大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 香川県立高松西高等学校
「シカマル」
造田 隼佑・佐伯 峻平



主催 百十四銀行

参加校一覧

香川誠陵高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高松西高等学校、香川県立高松桜井高等学校、香川県立高松商業高等学校、香川県立観音寺第一高等学校、香川県立丸亀高等学校、香川県立三本松高等学校、大手前丸亀高等学校

申し込みチーム数 18チーム(9校)

運営スタッフ感想

昨年に続き今年もオンライン合同形式での開催となりましたが、香川大会は9校18チームの高校生が参加しました。今年の優勝チームは、香川県立高松西高校のシカマルチーム。昨年の優勝・準優勝チームを抑えての勝利でした！全国大会での彼らの活躍に期待したいと思います。



香川大会代表 香川県立高松西高等学校 1年

造田 隼佑

僕はこのエコノミクス甲子園に参加して、学べたことがたくさんあったと思います。まず第一に感じたのは、経済は僕たち高校生にとって身近でありながらも生涯にわたって大切であるということです。例えばこの大会のために勉強した保険に関する知識は、現在の僕にはそれほど重要ではありません。対してこれから僕が大人になり、どの保険に加入すべきか考えるとなったとき、その知識は自分の財産や人生に大きく関わってきます。また学校の自動販売機で自由にジュースを買えたり、お昼ご飯を自分で買ったりする高校生になると、この大会で身につけられた知識がお金の管理に必要不可欠だと思います。この他に得られたこととして、ペアとの連帯感があります。僕は、現在のペアの佐伯君に誘われて地方大会に応募しました。最初は地方大会で優勝しようなどといった強い意志はなく、ちょっとした思い出作りとして参加を決めましたが、経済や金融のことを深く学んでいくうちにどんどん楽しいと思えるようになりまし。同じ頃、ペアの佐伯君のエコノミクス甲子園に対する熱い思いを感じ始めたことから、彼の為にも良い結果を残したいと考えるようになりまし。地方大会優勝は僕たちが相互に高め合った結果だと捉えているので、互いの良さを最大限活かせる連帯感を生めたことは大きな力になったのだと思います。だからこそペアの佐伯君にはとても感謝しています。最後に、僕はエコノミクス甲子園に参加したことで、ここに書ききれないほど多くのことを体験でき、自分自身を成長させられたと思います。エコノミクス甲子園関係でたくさんの方々に協力していただき、迷惑もかけてしまったと思うので、来年こそはさらに良い結果で恩返ししたいと強く思っています。



香川大会代表 香川県立高松西高等学校 1年

佐伯 峻平

昨年11月、エコノミクス甲子園のポスターを見かけた。当時経済に関心を持っていた僕は「とりあえず、面白そうだから出てみよう」という軽い気持ちで出場することを決めた。

しばらくすると大量の教材・パンフレットが送られてきた。その教材・パンフレットには、知らないことがたくさん書かれており、難しい内容ではあったが、とても為になる物だった。そして迎えた香川県大会。オンラインで慣れない部分もあったが、勉強した甲斐もあり、手応えは充分だった。結果は、優勝。相方とともに喜んだ。

その後、新たな教材が送られてきた。それらははっきり言ってとても難しかった。初めに読んだときは出てくる単語の意味がわからず、何度もインターネットで調べながら読み進めた。しかし、少しずつではあるが知識が自分に定着していくのを感じた。そうして迎えた、事前順位決定戦。県大会とは比にならないほど難しい問題ばかりだった。結局、半分程度しか答えられなかった。次の日、いよいよ全国大会を迎えた。しかし、結果は惨敗だった。問題がとても難しく、一問も答えられずとても悔しかった。

その後、敗者部屋で参加者のみんなと交流することができた。みんな全国大会出場者というだけあって、知識が豊富であったためとても有意義な時間を過ごせた。全国大会で初戦敗退という結果でしたが、それでもこの大会を通して得られたことがたくさんありました。

このエコノミクス甲子園を通じて僕は、より一層経済に興味を持つ事ができました。勉強をする上で、ただ単語を覚えるのではなく実用的な知識・考え方を得ることで、日々の生活に対する見方も変わってきたように感じます。これからの時代、急速に変わっていく社会の中で、この大会で得た知識を基に頑張りたいと思います。

最後になりますが、エコノミクス甲子園関係者の皆様、この度はありがとうございました。





愛媛大会 12月12日(日)開催



優勝チーム 愛媛県立松山西中等教育学校
「星くず」
山根 大空・栗栖 知史



主催 伊予銀行

参加校一覧

済美高等学校、新田高等学校、新居浜工業高等専門学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立新居浜工業高等学校、愛媛県立川之石高等学校、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立南宇和高等学校、愛媛県立今治西高等学校、愛媛県立三崎高等学校、愛媛県立三島高等学校、愛媛大学附属高等学校

申し込みチーム数 26チーム(13校)

運営スタッフ感想

まず、2年ぶりの集合形式での開催を無事に終わることができ、安心しております。コロナ禍の中でも参加を決意し、大会を盛り上げてくれた愛媛県内の高校生の方々に感謝しています。

参加した高校生たちは真剣に金融や経済に向き合っており、とても感銘を受けました。今年はじめて参加いただいた学校もあり、高校生たちの金融・経済に対する興味・関心・知識が年々高まっているように感じています。来年以降も引き続き参加いただけるように、高校生により身近な方法を模索しつつ、さらに「エコノミクス甲子園」を広められるように邁進してまいります。

本大会を主催して下さった金融知力普及協会の皆さま、愛媛に帰ってきてくれた学生スタッフの皆さま、そして、第16回エコノミクス甲子園に参加してくれた愛媛県内の高校生の皆さま、本当にありがとうございました。



愛媛大会代表 愛媛県立松山西中等教育学校 2年
山根 大空

私がエコノミクス甲子園の存在を知ったのは高1の春でした。中高一貫校に通っている私は、部活動を中学3年でやめ、当時は夢になれるものを失い、墮落した生活を送っていました。そこで、同士であった相方がこのエコノミクス甲子園の存在を教えてくれ、一緒に参加することになりました。当時は軽い気持ちで参加したけれど、この行動が私の将来を変えたターニングポイントと言っても過言ではありません。

第15回(この年は地方大会4位)、第16回エコノミクス甲子園を通して、様々な経済、金融の知識を得ることができました。成人年齢が18歳に引き下げられ、私も来年で成人します。そこで、必要な取引や税、奨学金など、生きる上で大切な知識や将来間違いなく役に立つ知識を得ることができました。それだけでなく、エコノミクス甲子園のおかげで、経済にとっても興味を持ち、志望大学、そして将来の夢を見つけることができました。エコノミクス甲子園が私の未来を変えてくれました。

全国大会は、オンライン開催ということで時間的拘束もなく自由に他校の出場者とチャットで交流できました。事前第1ラウンドはとても考え甲斐のある面白いゲームで、楽しみながら参加できました。結果は残念でしたが、今まで実践したことのないような模擬取引で、相手の行動や考えを見積もりながら自分の行動を考えるのはとても良い経験になりました。本番では1回戦で今回優勝された栄東高校さんに当たり、早々に敗退してしまったけど、その後も他校の参加者と楽しく交流でき、また、工夫を凝らした問題に、経済に対する知的好奇心がさらにわきました。

私の未来を変えてくださり、かつ、良い経験をさせていただいたエコノミクス甲子園には感謝しかありません。最後になりますが、コロナ禍でも工夫を凝らした素晴らしい大会を開いて下さったスタッフの皆様、今回は本当にありがとうございました。

愛媛大会代表 愛媛県立松山西中等教育学校 2年
栗栖 知史

私たちがエコノミクス甲子園に参加するのは2回目になります。昨年度、私たちはオンライン開催の地方大会で4位を取り、悔しい思いをしました。そして、同時に来年こそは、東京へいくぞ!と思いました。それから今年度、前回とは違う集合形式の地方大会となり、とても緊張しましたが、相方のおかげで優勝することが出来ました。

オンライン大会となった全国大会は、学校の定期テストと

被り、あまり満足いく勉強はできなかったものの最善を尽くしました。結果は1回戦敗退と残念な結果となりましたが、貴重な経験をすることが出来たと思います。

まず、これからの生活に大きく関わり、無駄になることがないであろう経済について興味を持ち、理解することができました。ニュースで聞いたことがあるような言葉の意味を知っていくのは、勉強していて楽しかったです。

そして、他県の代表の方々とエコノミクス大会やりハーサル・本番の敗者部屋でコミュニケーションを取ることが出来たことも良かったと思います。他県の高校生と話す機会というのは滅多にないことなので、良い経験になりました。

最後に、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりましたが第16回大会を開催して下さった全ての関係者の皆様、本当にありがとうございました。来年は東京で開催できることを祈っています。





福岡大会 11月14日(日)開催

 **北九州銀行**

優勝チーム 福岡県立小倉商業高等学校
「おかしいくまさん」
大熊 琉介・香椎 朝日



主催 北九州銀行

参加校一覧

自由ヶ丘高等学校、筑陽学園高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立福岡工業高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立小倉商業高等学校、福岡県立小倉南高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校

申し込みチーム数 21チーム (9校)

運営スタッフ感想

昨年に続きオンラインでの開催となりましたが、昨年を上回るチームにご参加いただきありがとうございます。

大会周知の際に、「多くのイベントが中止になる中で、オンラインでも開催してくれて感謝します」とのお言葉を頂き、微力ではありますが高校生の皆さんの思い出作りの一助になっていることが実感でき、大変うれしく思いました。

新型コロナウイルスの影響で何をすることも窮屈な生活を強いられている中ではありますが、皆さんの若い力で是非一緒に福岡を盛り上げていきましょう。

福岡大会代表 福岡県立小倉商業高等学校 2年
大熊 琉介

日本(特に若者)の金融リテラシーの低さが問題になっている今、この体験を通して金融知力を深めることができました!!ただ知識が身についただけでなく、事前ラウンドやSlackなどでの他校との交流は、何者とも代え難い貴重なものだったと思います。エコ甲終了後も関係が続いており、すべてが有意義なもので、これからも大切にしていきます。敗者ルームでの会話やSlackでの高度なやりとりには感服し、同じ高校生とは思えませんでした。。

相方とも今まで以上に仲良くなれたと思うし、クラスの人よりも好きになりました。

エコ甲を通じて、他の〇〇甲子園なども沢山知る事ができ、そのどれもが自分の人生をより豊かにするものだなと感じました。今回のエコ甲も「あ、クイズ大会だ!」という程度で参加し、まさかここまで交流が深まるとは思っていませんでした。

事前に頂いた資料は量が多く、テスト期間やその他の検定と相まって十分に取組むことが出来なかったため、未練が残っています。来年は受験生のため参加できるかは分かりませんが、今回学んだ事を活かして人生をより豊かにしていきます!!



福岡大会代表 福岡県立小倉商業高等学校 2年
香椎 朝日

今回、エコノミクス甲子園全国大会に出場し、貴重な体験をすることができました。

私は、エコノミクス甲子園に参加するのは2度目であり、1度目のインターネット大会での地方大会敗退という結果から、悔しい気持ちはありながらも2度目の参加は考えていませんでした。しかし、相方の大熊くんに誘われ、「もう一度頑張ってみよう」と思い参加を決意しました。

むかえた福岡大会では、優勝することが出来たものの、私の自信のなさから相方に頼り切りになってしまいました。全国大会では自信を持って挑めるよう、事前教材はもちろん、新聞や経済書などを読み漁り、対策をしました。

そして挑んだ全国大会。結果は2回戦敗退と1回戦を突破することができましたが、納得のいくものではありませんでした。自分なりに積極的に取り組み、対策したはずが、他のチームはもっと取り組んだのだろうとレベルの違いを痛感させられ、1度目のエコノミクス甲子園とはまた違う悔しさの残る大会となりました。

ですが、本大会を通して沢山の友人関係を築くことが出来たのは、私にとって一番の思い出になりました。特に事前ラウンドのヒント交換クイズで協力したチームとの会話はとても楽しく、負けて悔しかったはずなのに敗者ルームでの交流が楽しすぎて全国大会に出場できて本当に良かったと思うことができました。来年は受験もあるため、参加できるかは分かりませんが、今回深めることができた金融知力を活かして、今後の人生をより良いものにできたらと思います!最後に、エコノミクス甲子園を開催して下さったスタッフの皆さん、出場された各チームの皆さん、また支えて下さった先生方、ありがとうございます。全国大会の2日間という短い時間のなか有意義な時間を過ごすことができました。そして、相方の大熊くん。大熊くんに誘ってもらえなければ、できない体験が沢山ありました。大熊くん、一緒に参加してくれてありがとう。





佐賀大会 12月19日(日)開催

このまちで、あなたと
佐賀銀行

優勝チーム 弘学館高等学校
「ばしこ」
岡村 和奏・石橋 功基



主催 佐賀銀行

参加校一覧

早稲田佐賀高等学校、弘学館高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、佐賀県立白石高等学校、佐賀県立佐賀西高等学校

申し込みチーム数 21チーム (5校)

運営スタッフ感想

接戦を勝ち抜かれた「ばしこ」チームのお二人、優勝おめでとうございます。全国大会でもお二人の力を発揮されご活躍ください。

また、本地方大会に出場頂きました皆様もお疲れさまでした。今後とも、金融知識向上に励んでいただければと思います。



佐賀大会代表 弘学館高等学校 2年

岡村 和奏

最初エコノミクス甲子園に参加する気はありませんでした。しかし先生に勧められ、私には断る勇気がなく、漠然とした気持ちで申し込みました。とはいえほとんど経済の知識がない状態から学ぶのは、新しい発見づくしでとても楽しかったです。勧めてくれた先生には感謝しています。そして、2位と2秒差という厳しい戦いだった地方大会を経て全国大会に臨みました。全国大会は東京に行けるものだと思います、わくわくしていましたが、まさかのオンラインでした。その時のショックは結構大きかったです笑 (HPをしっかりと見ていなかったの…)

結果は一回戦敗退。前半のグループだったら結構解けたのにと問題のせいにしながらも、他のチームを見たりする中で、自分の知識不足を痛感しました。私は全国大会というものに参加したことがなかったので、ほかの都道府県の人がたくさんいるという状況がとても新鮮でした。待機部屋では地方の話についてたくさん話せました。また、オンラインならではだと思ったのが、事前第1ラウンドです。Slackのチャットを使って交渉するというものでチームそれぞれの戦略があり、とても楽しかったです。Slackを通じて沢山話すことで親交を深めることも出来ました。今回の大会を通して、経済の勉強をしたことで、高校では学ばないけど将来必ず役立つことをたくさん知ることができました。また、今まで全く気にしていなかった経済の動向などをニュースなどで確認するようになりました。経済用語を知れば知るほどニュースへの理解度が増し、見るのが楽しくなります。大学生になってからも経済の勉強は続けるつもりです。今回の参加はとても良い経験になりました。参加者の皆さん、スタッフの皆さん本当にありがとうございました。



佐賀大会代表 弘学館高等学校 2年

石橋 功基

面倒臭そうだから絶対に出たくないと思っていたのにもかかわらず、相方の岡村さんからの誘いを断れず出場したエコノミクス甲子園。今大会で得たものは、「新しい自分」だった。

ダラダラ過ごし、課題以外の学習はほぼせず。公認会計士を目指し、経済分野へ進もうとしていたにもかかわらず、経済に対して苦手意識を抱いていた。だが、今大会を通して、経済に対する苦手意識を克服し、相方の足は引っ張れない、と、使える時間を全て有効活用して、なんとかエコ甲対策と普段の学習を両立させ、学習習慣を身につけることができた。並々でない努力をして地方大会に優勝した時の嬉しさは今でも覚えている。

そして全国大会。今回はオンラインではあったがこういう経験は初めてでとても緊張した。初戦敗退という残念な結果になってはしまったが、さまざまな地域に住む方々と交流できたのは非常に良かったと思う。

どうしようもなく出場した今大会は自分にとっては非常に価値あるものになると思う。今回得た金融知力は、大学で、もしくは日常生活で必ず役に立つだろう。今回味わった喜び、嬉しさは、今まで自分が嫌ってきた、「新たなことに挑戦」する後押しをしてくれるだろう。そして大学受験には必須の学習する習慣は、自分が目標とする大学に向けた一歩を踏み出す手助けをしてくれるはず。

今大会を語るのにこのフレーズは抜かせない。

「今は信じない、残酷な結末なんて」

僕が大好きな歌の歌詞の1フレーズ。どうしたらいいかわからなくて、不安で、辛かったこの半年間、このフレーズに支えられて、なんとか乗り切ってきた。これからは、今までとは全く違う、新しい自分で、この思い出の詰まったフレーズと共に目標に向かって前進しようと思う。

長くなりましたが、今まで支えて、応援してくれたお父さん、お母さん、大会運営に携わったスタッフの方々、本当にありがとうございました。そして、岡村さん、誘ってくれて本当にありがとう。ここで全ての方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。





宮崎大会 12月19日(日)開催



優勝チーム 宮崎県立宮崎西高等学校
「景清」
吉田 雄飛・高妻 尚生



宮崎大会代表 宮崎県立宮崎西高等学校 2年
吉田 雄飛

私は、昨年出場した先輩方のプレゼンをきっかけに、地方大会に申し込みました。金融経済には興味があり、教材が送られてくるのを楽しみにしていましたが、届いた量には圧倒されました。そこから二人での勉強が始まりました。休日に二人で勉強したことや、放課後に合唱部のクリスマスコンサートの歌声が遠くに聴こえる中勉強したことが、今となっては懐かしく思い出されます。その甲斐あって全国大会出場が決まった時の喜びは格別でした。多くのクラスメイト達も「おめでとう」と祝福の声を掛けてくれました。迎えた全国大会では、他県の参加者たちの知識量に一瞬怯みそうになりましたが、得られた機会を存分に楽しみながらそれまで培った知識を発揮することに専念しました。あと1点というところで1回戦敗退という結果になり、非常に悔しい思いでした。

その後の敗者部屋は明るい雰囲気、他校のユニークな参加者たちも多く、とても楽しく過ごせました。前日までのSlackでの交流も有ったので、それをふまえて、学校の環境についてなど気になるお互いの情報を交換することも出来、有意義な時間となりました。今回、オンラインでの全国大会となり、他県の参加者との交流が出来ないだろうと残念に思っていたのですが、お互いの顔を見ながら交流できる貴重な場を提供して頂き、大会運営の皆様には大変感謝致しております。事務局の佐藤様、小嶋様、手厚いサポートをありがとうございました。

悔しい結果には終わりましたが、金融経済に関する実用的な知識を身に付けられたことは、私にとって大きな実りでした。今後も金融経済への関心を持ち続け、さらに知識を広げ成長していきたいと思えます。

終わりに、相方の高妻君、場所や機材を快く貸して下さった高妻君のご家族の皆様への感謝の気持ちを添えさせていただきます。ありがとうございました。

主催 宮崎太陽銀行・宮崎銀行

参加校一覧

鵬翔高等学校、聖心ウルスラ学園高等学校、延岡学園高等学校、宮崎第一高等学校、宮崎県立日向高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立妻高等学校

申し込みチーム数 16チーム (7校)

運営スタッフ感想

昨年に続いてのオンライン大会となりました。在宅で参加できることから、リアルでの開催時よりも遠方の高校からの参加が多くなっており、コロナ禍においてエコノミクス甲子園の県内認知度は高まっているのではないかと感じています。

高校生たちの熱戦ぶりを直接目にすることができないのは寂しいですが、全国大会でも頑張っていたかと思えます。



宮崎大会代表 宮崎県立宮崎西高等学校 2年
高妻 尚生

私の学校は理系の生徒が多く、エコノミクス甲子園は知名度が低くて私も聞いたことすらなかった。しかし全国大会に出場された一つ上の先輩が、集会でエコノミクス甲子園を紹介されたのを聞き、出場を決意した。メンバーと空が暗くなるまで教室に残って勉強した。勉強の内容は私たちの生活や人生に深くかかわるもので、勉強していて楽しいものだったが、同時に、政治経済を選択した高校生しかこのような大切なことを詳しく勉強していないという金融教育の遅れも感じさせるものでもあった。初めての参加で分からないことも多く不安な中、ついに地方大会の日を迎えた。正直手ごたえがあまりなく、これは負けだな、と思っていたところに優勝、しかも2位に20ポイント近く差をつけており、とても嬉しくてメンバーと喜び合ったことを覚えている。全国大会へは、政治経済の教科書の用語集を買って一冊覚えるというやり方で臨んだが、一か月ほど前から試験や課題研究の発表などが重なっており、満足いく勉強をあまりしていなかった。結果は一回戦敗退と、少し悔しいものだった。しかし一方で、オンライン上での大会でありながら、エコノミクス大会など、他校との交流ができる機会を設けていただけており、他校の生徒と話すこともできた。コロナの影響で高校生になってからは他校との交流ができておらず、こうした他校の生徒と交流はとても貴重なことだと感じた。また出場選手の多くが同学年の文系難関大学志望者だったので、自分も受験を頑張らないといけないなど、良い刺激も受けられた。最後に、大会運営の方には、コロナ禍でありながら大会を開催していただき、ありがとうございました。





鹿児島大会 12月19日(日)開催



優勝チーム ラ・サール高等学校
「雇用利子および貸」
有水 大世・吉田 巨助



主催 鹿児島銀行
参加校一覧
鹿児島情報高等学校、ラ・サール高等学校

申し込みチーム数 4チーム (2校)

運営スタッフ感想
2年連続オンライン開催でしたが、鹿児島県参加チームも減少しており残念です。
次回は何かリアル開催をして参加チームを増やせればと考えております。
引き続きよろしくお願いたします。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 1年
有水 大世
僕がエコノミクス甲子園に参加しようと思ったきっかけは、先輩たちの姿です。中学生の頃からエコノミクス甲子園に出場される先輩方がかっこよく、高校生になったら絶対に参加して活躍してやると思っていました。さて、実際高校生となり、経済の勉強にも本腰を入れ始めたのですが、経済を学ぶ中では日頃のニュースで聞くようなことがどのような意味を持つのかを知ることができ発見の連続でした。また、経済史を学ぶと、現在の制度がどのような経緯を辿って成り立っているのかがわかって非常に興味深かったです。とまれ、地方大会では、それまで学んだことに加え思い切りの良さを存分に発揮し、同じ部活の仲間たちに打ち勝ち全国大会に進出することができました。このときはとても嬉しかったのを覚えています。そして全国大会がやってきました。最初のヒント交換クイズの中では様々な高校の方とやりとりをすることで交流を持つことができました。エコノミカ大会では、グループの中で全勝することができよかったです。本選では、初戦で後の優勝校となる栄東さんと当たり敗退してしまいましたが、敗退部屋でも様々な話を聞くことができとても有意義な時間となりました。最後になりましたが、大会のため共に牙を研いだ部活の仲間たち、オンラインでの参加を手配してくださった先生方、またこのような大会を運営してくださった皆様、本当にありがとうございました。来年はもっと強くなって帰ってくることをここに誓います。



鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 1年
吉田 巨助

相方の有水にペアに誘われてからたくさん勉強して、考えて、あつという間に楽しい時間が過ぎてしまいました。この大会のおかげで経済に触れる機会をいただき、社会で必要な様々なことを知ることが出来ました。学校の部活の活動としてこの大会を知り、先輩たちがこの大会に参加していく姿を見ていきましたが、実際に参加してみて、経済の複雑さを紐解いていき、その面白さにどんどん惹かれていきました。特に僕は保険分野に取り組み、保険の運用や補償範囲などの特色を知られたのは僕の将来にとっても良かったと思います。同じく大会に出る同じ部活の友達とも、協力して事前の教材に取り組み、その中で自分たちが県大会で勝ち抜けられたことはとてもうれしかったです。事前ラウンドのヒント交換クイズはすべて相方に任せていましたが、パズルのピースがぴったりはまって答えが分かったときは気持ちよかったです。本番前は他校と交流する時間をいただき、エコノミカ大会では全勝して勝ち抜けられて嬉しかったです。本番では一回戦で敗れてしまいましたが、他校のレベルの高いクイズを見られて興奮しっぱなしでした。敗者同士でのおしゃべりも、真面目な解説から大喜利まで様々あり、とても面白かったです。敗者内で会話しながら問題を解いているうちにも、より知識が深められた気がします。エコ甲に参加して得られた知識や人脈は、必ず将来役に立つであろうものばかりで、この大会に参加できてとてもよかったです。また来年、もう一度全国大会に出て、リベンジが果たせるよう努力していきます。支えてくれた相方や先生、部活の先輩・同輩、そしてこの大会を開催してくださった運営の方々に深い感謝を伝えようと思います。





沖縄大会 12月5日(日)開催

① 沖縄銀行

優勝チーム 沖縄尚学高等学校
「アテナイ」
安里 晃生・東 志遥



主催 沖縄銀行

参加校一覧

沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立普天間高等学校、沖縄県立向陽高等学校、沖縄県立具志川商業高等学校、沖縄尚学高等学校、昭和薬科大学附属高等学校、N高等学校

申し込みチーム数 19チーム (7校)

運営スタッフ感想

今回はじめて「エコノミクス甲子園」を担当しました。前回に引き続きオンライン開催ということで、地方大会当日はモニター越しにクイズに挑む高校生の皆さんを応援するかたちとなりました。

モニターを通してではありましたが、一生懸命考えたりペアの二人で協力し合ったりクイズに挑戦している様子から、学生たちの「エコノミクス甲子園」への熱い思いを感じることができました。同時に、もっと多くの高校生にこの大会を知ってもらい、参加してもらいたいと感じました。

楽しみながら金融・経済の知識を身に付けて、金融リテラシーの向上に繋がれば嬉しく思います。



沖縄大会代表 沖縄尚学高等学校 2年

安里 晃生

〇〇甲子園とつく全国大会は今やスポーツ、文化問わず多くの団体で開催されていますが、金融・経済というジャンルにおいてもその知識を競う大会があることを知ったのは中学3年生のときでした。その時から漠然とエコノミクス甲子園に興味を持っていましたが、今回こうして全国大会に出場して振り返ると、ただ知識を競い合うだけでなくほかのチームと連携したり交流することにも重視していて、エコノミクス甲子園をきっかけにより深く金融知力を養いながら、全国大会に出場した仲間たちと仲良くなることが出来たと思います。

私たちは2度目の参加で全国大会に出場することができました。運よく学校で初めてのエコノミクス甲子園全国大会進出となりましたが、県大会で戦った他のチームもレベルが高かったので全国大会には少し自信を持っていました。そうして全国大会の1か月ほど前から Slack というアプリを通じて全国大会に出場する高校生と交流を重ねてきました。地方大会の様子や金融経済に興味を持った理由などをお互いにやり取りして、刺激という言葉では片付けられないほどの新鮮さと居心地の良さを感じた一方で、そうした人たちが対戦相手でありライバルになることに不安を感じました。

事前ラウンドでは、各チームが持っている問題文の一部を集めてその答えを解答するというゲームで大分東明のチームと連携して取り組んだこともあって、大会1日目に行われた四択クイズと合わせた事前ラウンド全体の得点は36チーム中11位と、想定以上の高成績を取ることができました。

2日目の本戦では、緊張しながらも1回戦を突破しましたが、2回戦では焦りからか無回答を連発してしまい、敗退してしまいました。勝ち上がった栄東のチームがその後ほとんど正解して大会を優勝するのを見て、レベルの差を痛感したのを覚えています。

大会自体は2日間という日程でしたが、それまでに構築し



た他の代表チームとの思い出はとても濃密で、エコノミクス甲子園に出場することなしには体験することが出来ませんでした。今回体験して学んだことは今後の人生で財産になるものだと確信しています。

結びになりますがこのような状況の中、開催に尽力して下さった大会の運営や金融知力普及協会の皆様、沖縄銀行の方々、その他すべての関係者の皆様、本当にありがとうございました。

沖縄大会代表 沖縄尚学高等学校 2年

東 志遥

この前機の整理をしていると去年もらった資料が埋もれていた。土層から出てきた化石のようであった。ふと去年の光景が目に入る。本を読んでいると突然声をかけられた。あわててふと顔を見上げる。メガネをかけた男が立っていた。「エコノミクス甲子園というのがあるんだけど…」何故だかその高い声に吸い寄せられた。時間の流れが遅くなったように感じた。オーケストラを聴いている群衆になった気分だった。「あの…聞いている?」「うんうん。聞いているよ」「一緒に出よう!」「うん!いいよ」ドン、ドン。資料の底を合わせる。そっと机に置く。資料をめくった。時を超えた光景が脳に映る。「去年は地方大会5位だったな〜。」言葉とともに悔しさが甦る。色々追憶していると空は赤くなり始めていた。今年貰った旗が赤く輝く。それを取って机に置く。さっと階段を駆け上がる。貰ったホワイトボードを手に取りさっと降りる。エコノミクス甲子園という言葉を見るたびに目頭が熱くなるのを感じた。悔しさが胸に響く。涙でマーカーの字がにじむ。1回戦はなんとか突破できた。ここまではよかった。問題は2回戦目だ。1点差で敗れた。わからない問題が多かった。待機部屋に戻ってくると事務局の人と誓ったのを果たせなかった。その悔しさと1点差で敗れた悔しさで言葉が出なくなった。敗者部屋に入るとそこでもクイズ大会をやっていた。次のブロックの問題を解いた。もしそのブロックだったら勝っていたと思って余計に胸が痛くなった。みんなに聞いてみるとみんなもこのような気持ちだったらいい。他にも「昨日見たのに思い出せなかった、緊張で頭が真っ白になった」と感嘆している者もいた。運も実力のうちという言葉が本当によくわかった。勿論自分たちには足りないところはあった。できる限りのことはやったのだがそれでもカバーしきれないところが出てきた。唐突に人間はやってることが完璧だと思っけても実際には下敷きより薄いのだと理解した。調べてみると脳がそう錯覚させるらしい。持ってきたホワイトボードを立てた。机の上が立派な博物館になっていた。気を取り直そうとパ

ンパンと顔を叩く。でも悔しさは落としきれなかった。それはしだいにパートナーが奨学金を獲得した嬉しさに埋もれていった。来年出て優勝と言いたいところだが来年度は受験甲子園があるので出れそうにない。受験甲子園優勝を意気込んでペンをとる。夕日が差し込む。いつにも増して綺麗だった。

〜栄東高校のお二人方この度は優勝誠におめでとうございます。〜





インターネット大会 12月18日(土)開催



主催 住信 SBI ネット銀行

参加校一覧

鹿児島県立鶴丸高等学校、鳥取県立鳥取西高等学校、高知県立高知国際高等学校、開智高等学校、開星高等学校、開成高等学校、聖心インターナショナルスクール、第一学院高等学校、福島県立会津高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福井県立高志高等学校、福井県立敦賀高等学校、神戸女学院高等学部、真和高等学校、白陵高等学校、甲陽学院高等学校、熊本県立沓崎高等学校、灘高等学校、滋賀県立水口東高等学校、湯梨浜高等学校、清風高等学校、清教学園高等学校、沖縄県立球陽高等学校、江戸川学園取手高等学校、栃木県立大田原高等学校、東京都立豊多摩高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立戸山高等学校、智辯学園和歌山高等学校、星陵高等学校、明治大学附属中野高等学校、早稲田佐賀高等学校、常総学院高等学校、岩手県立盛岡商業高等学校、岩手県立一関第一高等学校、岩手県立一関工業高等学校、岐阜東高等学校、富山県立富山東高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台二華高等学校、大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎、大阪府立生野高等学校、大阪市立咲くやこの花高等学校、大分県立国東高等学校、大分東明高等学校、土浦日本大学高等学校、国際基督教大学高等学校、品川女子学院高等部、吉祥女子高等学校、千代田女学園高等学校、北海道千歳高等学校、兵庫県立姫路商業高等学校、兵庫県立加古川東高等学校、兵庫県立三田祥雲館高等学校、佐賀県立小城高等学校、佐賀県立唐津西高等学校、京都西山高等学校、三輪田学園高等学校、ノートルダム清心高等学校

申し込みチーム数 99 チーム (60 校)

運営スタッフ感想

この度はご参加いただきました高校生の皆様、お疲れ様でした。

コロナ禍において様々なイベントが開催中止等になるなか、このエコノミクス甲子園への参加はよい思い出になったでしょうか？

金融経済知識は、皆様が社会経済を過ごすなかでこの変革の時代を楽しみながら生きていけることと信じております。

優勝チーム 大分東明高等学校
「ゴールドスミス」
兼武 航太郎・宮崎 飛羽



準優勝チーム 宮城県仙台二華高等学校
「コル・カロリ」
田中 舞・熊谷 光哉



3位チーム 灘高等学校
「トリアゾール」
池田 高啓・岩田 崇史



優勝チーム

インターネット大会代表 大分東明高等学校 2年

兼武 航太郎

私がエコノミクス甲子園と出会ったのは、相方の宮崎からの「政経のクイズ大会みたいなものがあるらしい」という、相方がもう覚えてないというくらいの、軽い一言であった。その時は、特に気にも留めなかったが、それからしばらく経ったあとふと思い出し、調べてみると申し込み期間中であつたので、教えてくれた宮崎を誘うと、快諾してくれたので出場した。正直なことを言うと、地方大会はかなり厳しいかもしれないが、可能性は十分にあり得ると、本番前は感じていた。元々、私は、資産運用をテーマに研究レポートを書いたり、投資信託の積立投資を行っていたりなど金融知識には自信が多少あったからだ。また、相方の宮崎は、マクロ経済学など理論的な経済学の知識があり、私によく話してることがあり、この2人で出れば、お互い金融や経済の違う分野に興味があるから、補えると思っていた。しかし、地方大会の2週間前に出された小論文のテーマは、中々難しく、相当苦労した上に、当日は端末や通信の不具合で数問解けなかった上に、誤答もかなりしてしまい、結果発表直前に二人で「結果は残念だろうけど、いい思い出にはなった」って言葉を交わしたくらい負けを感じていた。しかし、結果はまさかの1位で本当に驚いた。本番は、最初は上手いき、勝てるかと思った矢先に、4問目でガスシ債とサムライ債を逆に覚えてしまっているという、知識不足で負けてしまった。正直誤答した直後は相当悔しかったが、敗者部屋で他の学校の方々と様々な話ができしたのは貴重な経験の1つであったし、そのおかげで悔しさよりも楽しさが上回り、最後はとてもよい大会だったと思えたのでよかった。この全国大会の悔しさは、後輩に話したいと思う。ただ、金融の知識は将来どんな職に就こうとも、絶対に必要なものだと考えているので、個人的には勉強を続けたいと思う。最後に、このような機会を設けていただいたエコ甲の運営関係者様、他の出場者の方々、地方大会での小論文のアドバイスや土日も関わらず、学校を開けてくれたりなど様々な協力をしていただいた担任の先生や数学の先生、そして私の無茶ぶりにも応じてくれたり、事前ラウンドの作戦を計画したり、私の足りない部分を補ってくれた相方の宮崎、本当にありがとうございました。「サムライ債」は一生忘れない。



インターネット大会代表 大分東明高等学校 2年

宮崎 飛羽

私がエコノミクス甲子園に出場することになったのは、文化祭の開会式前だった。相方が近くの席に居たので話しかけると、エコ甲に出てみないかと誘われ、普段から相方と政治経済について議論していたので、快諾した。その場でチーム名についても議論し、ゴールドスミスで合意してくれた。

地方大会2週間前に出された小論文は、テーマを一応決めたが、その理由にインパクトがなかった。しかし、偶然、新生銀行のニュースを見た相方が、11月の改正銀行法に目をつけ、合併会社というアイデアを出した事が、結果的に見て決定的だった。

他の地方大会が始まってからは、焦燥が激しかったが、相方はほとんど解けたと言っていたので心強かった。

インターネット大会当日は、名門高校が集まっており、緊張した。小論文満点のチーム発表で大分東明と聞いた時には驚いたが、もう一方のチームだった。残念だと思ったが、最後にまた大分東明と呼ばれ、相方の機転に感謝した。総合の結果発表では2位まで呼ばれて相方は帰ろうとしていたが、まさかの1位だったので、久しぶりに叫んだ。誕生日の翌日だったので、良いプレゼントになった。帰りに自転車が壊れたのも覚えている。

私は、事前ラウンドを外交ゲームのように捉えていて、とても楽しみだった。私は沖縄と結託し、12チームの連合を3つ作り、情報統制を行おうとしたが、最初から上手くいかなかった。沖縄との結託がばれ、脅迫じみた文が届き、緊急で会議を開いた。二度と経験したくない。

本戦は、私が戦犯だったように思う。相方はサムライ債しか知らなかったが、直前に私がガスシ債を教えたからだ。GDPデフレーターで逆転可能だったが、担当分野だったので落とってしまった。本当に申し訳ない。

敗者部屋では、小説の宣伝、事前ラウンドの裏話、大喜利



があって面白かった。また、他のブロックの問題を解いたりしたが、相方といい、他のチームといい、レベルが高かった。運の要素もあるのだろう。

最後に、民主制を国民が是とするなら、経済の知識は不可欠だ。なぜなら、政治で最も大切なのは経済政策であり、経済は食、軍事、教育、科学技術、福祉等、全てに関わるからだ。今大会を運営し、全国の高校生に経済を学ぶ機会を与えてくださった関係者様、そして政治経済、ITの豊富な知識で助けてくれた相方の兼武、小論文のアドバイスや土日にも関わらず、学校を開けてくれたり、様々な協力をしてくださった先生方に感謝します。

準優勝チーム

インターネット大会代表 宮城県仙台二華高等学校 1年 田中 舞

全国大会に行けることが決まったとき、本当に驚きました。結果発表で、2位の学校名で「仙台」を聞いてもまさか自分たちだとは思いませんでした。「二華」とチーム名まで聞き取って、エコノミクス甲子園のTwitterを何度も確認して、やっと実感が湧いてきました。家に届いた事前教材は難しかったですが、全国大会に出られると思うと楽しみながら勉強を進めることができました。

大会本番では、短い時間で考えて答えを出すことの難しさを感じました。時間をかければ思い出したり分かたりするかもしれないが、事前順位や無回答にするかなどをすぐに考えて正確な判断をしなければいけないというところに面白さもあると思いました。また、他の高校の皆さんとお話しできたことも楽しかったです。オンラインのクイズの大会に参加して、ここまで全国の高校生と交流できるとは思っていませんでした。

エコノミクス甲子園に出場してよかったことはたくさんあります。本番当日の夜、家で新聞を読んでいたら大会で聞いた言葉がありました。次の日もニュースを気をつけて聞いていると、大会の問題の答えになっていた言葉が出てきました。それだけ普段の生活で経済や金融について学べることもあるのだと気づけました。そして、エコノミクス甲子園の教材を勉強することで、生きていく上で大切に必要な知識を得ることができました。高校生のうちに経済や金融について深く知ることができて良かったと思います。

今回は第2ラウンドで負けてしまいましたが、交流した皆さんの金融知力は圧倒的で、私はまだまだ勉強が足りないなと思いました。1年かけてしっかりと経済・金融について学び、来年また全国大会に出て優勝したいです。

最後になりましたが、このような状況の中でエコノミクス

甲子園の開催に尽力してくださったスタッフの皆様には感謝しています。ありがとうございました。



インターネット大会代表 宮城県仙台二華高等学校 1年 熊谷 光哉

エコノミクス甲子園は3つの側面を持つ。

まずは、金融知力普及があげられる。参加無料の大会にも関わらず、参加者には多くの勉強用の資料が送られてくる。私は今まで経済に関する勉強をほとんど行ったことがなく、現代社会の授業で少し触れた程度だった。そのため、勉強を進めていくにつれ多くの知識を得ることができた。例えば火災について、隣の家から火が燃え移ったとき、隣人には賠償責任がない。自分では火事を起こさない自信があったとしても、火災保険は必要なのだ。エコノミクス甲子園に出ていなかったら、こういった知識を知らずに生きていくところだった。経済分野には知らなかったでは済まされない知識が多い。

次に、クイズの大会としての側面がある。私は最初、結局は経済の知識を広めるのが主目的で、クイズ大会としての完成度は大したことないのではと危惧していた。しかし、地方大会、全国大会含めて、競技クイズの場で読み上げられてもおかしくない、クオリティーの高い問題ばかりだった。後から知った話だが、エコノミクス甲子園の運営はほとんどを元々この大会の全国出場者だった大学生の方々がやっている。自らが出場したときのアイデアを活かし、大会をデザインできるため、年度を重ねるごとに大会が良いものになっていく。素晴らしいシステムだと思った。

最後は同じ嗜好を持つ高校生との交流だ。全国大会の出場者は主にクイズ研究部に所属する人と経済分野に興味がある人がいた。双方普段の学校では話題が合う人が少ない。大会で敗退した後、他の学校の人と雑談を交わしたり、試合の応援をしたりした時間が本当に楽しかった。クイズ研究部として出た大会でここまで選手同士の関わりを持った大会は他に無い。コロナ禍で気分が沈みがちな中、こんな



に多くの人と関わるのは懐かしく、心地よかった。

総じて、この大会には参加するメリットが非常に多い。金融商品としてはあり得ないローリスクハイリターンが成立していると言えよう。迷っている人は是非参加すべきだ。但し来年の優勝は譲らない。

3位チーム

インターネット大会代表 灘高等学校 1年 池田 高啓

遡ること12月、地方大会で僕たちのチーム名が呼ばれた時は、正直驚きの方が大きかったように思います。それもそのはず、地方大会は期末考査終了直後、100チーム以上がひしめき合うという過酷な状況でした。不可解な巡り合わせは全国大会でも起こりました。運動部に所属し、ただでさえ時間がないのに加えて、1年間頑張ってきた課外活動の集大成が全国大会の1週間前。というドタバタで、地方大会も全国大会も、大会1週間前から詰め込み始めるという大胆な作戦を取った結果、残念ながら1回戦敗退という結果に終わってしまいました。

エコ甲の全国大会は1単語で表すと楽しい、2単語で表すとめっちゃ楽しい大会でした。結果は1回戦敗退と振るいませんでしたが、ここに至るまでに勉強した過程は必ずや将来に繋がるものだと思っています。

今回の参加を通して、ニュースや新聞をより深く理解できるようになったという点は大きな収穫だと思います。最近コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻と世界規模で様々な変化が起こる中で、そうした国際社会の動きを経済の方向から見るができるようになったことは、僕の視野をぐっと押し上げてくれました。

僕はまだ1年生なので、来年もエコ甲に参加し、今年の成績を超えられるように頑張りたいです。今年の反省を活かして、頂いた学習教材を中心に定期的に勉強し直し、知識を定着させていきたいと思っています。

エコ甲全国大会はまたこの場所に立ちたい、戻ってきたい、と心の底から思うことができる舞台でした。コロナ禍において、このような素晴らしい経験ができたのは、紛れもなく、スタッフの皆様のご尽力のおかげです。本当に有難うございました。

インターネット大会代表 灘高等学校 1年 岩田 崇史

私は幸運に幸運が重なりエコノミクス甲子園の全国大会に出場することが叶いました。

まず、相方が地方大会に誘ってくれたこと。応募の締切が

直前に迫っている中で声をかけてくれました。出場を即決したことを鮮明に記憶しています。

次にその地方大会を突破できたこと。地方大会前は、お互いがあまり勉強時間を確保することが出来ませんでした。しかし、大会出場が決まる前までに付けていた少しの事前知識と相方の「押す度胸」が地方大会の3位通過を呼び込みました。1問落としていたら、通過が叶わなかったことを考えると、本当に幸運だったと感じます。

全国大会までに僕達は多くの勉強を重ねました。事前ラウンドでも1位を獲得することができ、そのまま波に乗って突き進んでいくんだ！という気持ちでした。ただ、一方で多くの勉強を重ねたからこそ結果を求めるゆえ、緊張も感じていました。

ついに当日の朝を迎えます。全国大会1回戦は相方に助けられながら進んでいきました。残念ながら以降のクイズの感想を綴ることはできません。緊張の中臨んだ結果は敗退でした。私は、今回の大会を通して、クイズの結果だけではない多くのものを得ることが出来ました。大会に向けて蓄えた知識はもちろんのこと、多くの良き友人と巡り合うことが出来ました。このような素敵な場を作り上げてくださった運営の皆様、同じ環境で大会に臨んだ参加者の皆様には感謝を述べると共に、来年また挑戦することをここに誓って私の感想文を締めくくることとします。ありがとうございました。





1 日目

■エコノミカ大会

全国大会初日の午前中には、例年に引き続き「三井住友 DS アセットマネジメント杯エコノミカ大会」を開催いたしました。全国大会に出場する高校生に事前に配布したエコノミカ令和对戦セットを使用し、オンラインで対戦を行いました。高校生を4チームごとの9グループに分け、グループ内で総当たり戦が行われ、三試合終了後の勝ち数が各グループ内で最多であった優勝チームには、賞品が贈呈されました。大会初日の午前中ということもあり、開始前は高校生たちもまだまだ緊張している様子でしたが、対戦後には対戦相手と感想戦や雑談を行う様子が見られ、高校生同士の交流が深められた様子で、全国大会本番に臨むにあたって、良いアイスブレイクの時間を設けることができたのではないかと思います。

三井住友 DS アセットマネジメント株式会社の皆様には、多大なるご支援をいただきました。末筆にはなりますが、ここに感謝の意を表します。



■事前第1ラウンド「ヒント交換クイズ」

本戦に先立つ事前ラウンドとして、2月22日から25日まで「ヒント交換クイズ」を行いました。40パーツに分割された4問のクイズのパーツ1つと1000ポイントを割り当てられた各校が、パーツやポイントを取り引きしてクイズに解答し、各クイズに賭けたポイントと全体の正解者数に応じてポイントを増やすことができます。いかに正確な情報を獲得するか、正答率の低い問題をいかに見極める(または正答率が低くなるように操作する)かなどが焦点となる戦略性の高いゲームです。平日が中心の日程かつ本戦の勉強が必要な中でも、各校から積極的なご参加をいただきました。

ゲームの性質上、結託や騙し合いが多発したほか、大規模な結託関係を秘密裏に複数構築するなど、参加者のレベルの高さを感じさせる多様な戦略が展開されましたが、それゆえにゲーム後は、互いの戦略や協力関係で話が盛り上がり、オンラインという制限の下で、各校の交流を深める一助となったようです。

■事前第2ラウンド「オンライン早押し4択クイズ」

大会1日目のお昼からは2日目の全国大会本戦に先立ち、事前ラウンドの一環としてオンライン早押し4択クイズを行いました。計50問150点満点のクイズで正解ならば+2点、不正解ならば-1点、無解答ならば得点の増減がありません。また、各問題において最速正解上位10チームに入ると正解時の2点に加えて1点追加されます。事前クイズの結果は、本戦第1・第2ラウンドで同点だった場合の順番を決定するために使用されます。地方大会はもちろん、全国大会の本戦よりも難易度の高い問題が出題されましたが、制限時間の中で協力して解き100点以上をたたき出したチームもありました。



2 日目

■第1ラウンド組み合わせ表

沖縄尚学	名大附属	浜松学芸	岡山白陵	恵那	松山西
城東	青森	高岡	栃木	中央中等	ラサール
新潟	大分東明	仙台二華	灘	小倉商業	栄東
並木中等	東大寺	秋田	洛南	市川	金大附属
高松西	広島	旭川東	松本深志	宮崎西	洗足
藤島	駿台甲府	高田	白河	慶進	弘学館

■第1ラウンド・第2ラウンド「狙い撃ちクイズ」

第1ラウンド・第2ラウンドの「狙い撃ちクイズ」は3チームで行うクイズで、4択問題またはボードクイズが5問出題されました。問題に正解すると+1点、不正解で-1点、無解答なら±0点です。また、単独正解時には1チームを指名し、そのチームの得点を1点減らすことができます。5問終了時点で、得点が最も多かった1チームが次のラウンドに進出することになります。最多得点チームが複数いる場合は、事前順位の高いチームの勝利です。このルールの特徴は単独正解の際の「狙い撃ち」です。このコマンドを使うことで、自分の正解得点を含め相手チームとの差を2点広げることができます。どちらのチームを狙い撃つのかも戦略のひとつになりました。実力を出し切ることができなかったチームもいれば、運を味方につけたチームもいたようですが、進出が決まったチームに思いを託す様子は見ていて心が温まるものでした。

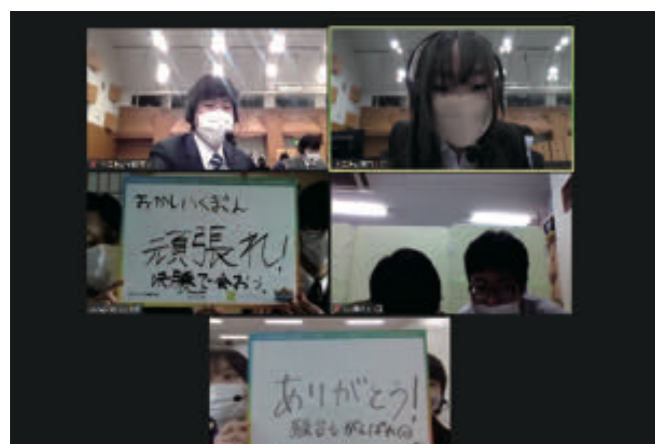
■準決勝ラウンド・決勝ラウンド「大株主クイズ」

準決勝・決勝ラウンドでは「大株主クイズ」が実施されました。このクイズは2チームの一騎打ちで行われ、第1・2ラウンドの「狙い撃ちクイズ」と同様に、4択問題またはボードクイズが出題されました(準決勝:全6問・決勝:全10問)。問題に正解すると、設定上の仮想の会社3社のうち、いずれかの株を獲得することができ、全問終了時点における株の保有状況によって勝敗を判定します。株の所有者が確定していない株である「浮動株」をいかにうまく獲得するかが勝利へのカギとなるクイズです。クイズ開始直後こそ、ルールの複雑さに困惑した表情を見せた高校生達でしたが、その後あっという間にコツを掴み、各々の考えた戦略に沿って堂々と解答していた姿が印象的でした。クイズ自体の難易度も高く、準決勝・決勝の名に恥じないハイレベルな試合を繰り広げていました。

■全国大会結果

- 優勝 埼玉代表 栄東
- 準優勝 石川代表 金大附属
- 準決勝進出 愛知代表 名大附属 福井代表 藤島
- 第2ラウンド進出 北海道代表 旭川東 栃木代表 栃木 山梨代表 駿台甲府
長野代表 松本深志 山口代表 慶進 福岡代表 小倉商業
沖縄代表 沖縄尚学 ネット代表 仙台二華

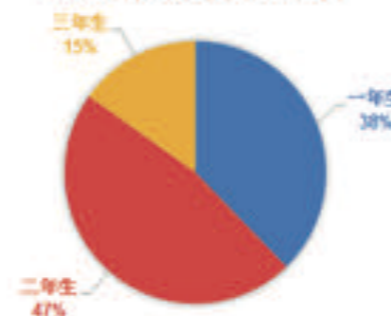




参加者アンケート

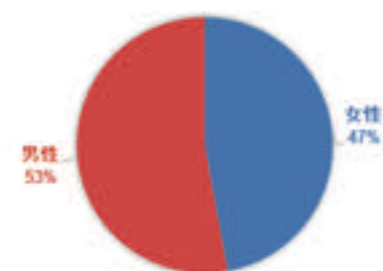
各地方大会に参加して下さった 575 名の高校生に大会参加後アンケートに回答していただきました

Q.学年を教えてください



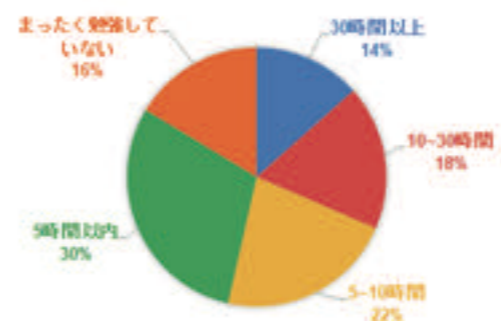
一年生・二年生の参加者からは、「また来年も参加したい」との声がたくさん寄せられました

Q.性別を教えてください



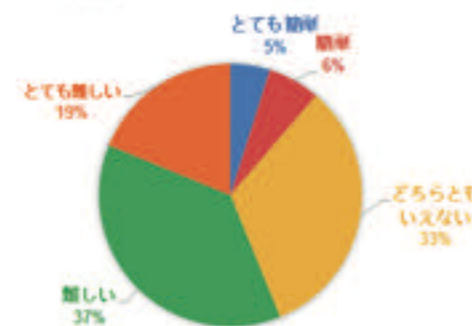
地方大会参加者の男女比は、ほぼ等しくなっています

Q.大会に備えてどれくらい勉強、対策をしましたか？



約半数の人が5時間以上勉強しているようです中には30時間以上勉強した人もいました

Q.問題のレベルはどう感じましたか？



問題は事前学習教材の内容から多数出題されますほとんどの参加者が複数の事前学習教材で勉強を行ってから大会に参加してくれていました

全体を通して「楽しかった」「将来の生活に役立てたい」といった声がたくさん寄せられました



地方大会

大会名	新聞	TV	その他 メディア
北海道	北海道新聞		
秋田	秋田魁新報		
福島	福島民報社 福島民友新聞社		
茨城	茨城新聞社		
栃木	下野新聞 日本経済新聞 東京新聞	とちぎテレビ	
埼玉	ニッキン 埼玉毎日新聞		
千葉			千葉興業銀行、 千葉銀行 HP
富山	北日本新聞社		PRTIMES 北陸銀行
石川	北國新聞	ICT 教育ニュース	
福井	福井新聞社		PRTIMES 北陸銀行
長野	南信州新聞		SBC ラジオ 長野経済研究 HP「研究員コラム」
岐阜	岐阜新聞 中日新聞 中部経済新聞	岐阜放送 東海テレビ テレビ愛知 CCN	
三重		三重テレビ放送	
愛媛	愛媛新聞	愛媛 CATV	
山口	山口新聞		
福岡	西日本新聞		
宮崎	宮崎日日新聞		

全国大会

WEB	PRTIMES マニュアル生命保険株式会社
WEB	moneyFOCUS
WEB	OBS ニュース
新聞 WEB	北陸中日新聞 Web
新聞 WEB	山口新聞電子版
新聞 WEB	北日本新聞ウェブ



エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄付していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。

事前学習教材の内容からクイズが多数出題されるので、生徒達も大会前にしっかりと勉強してくれており、単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。(順不同)

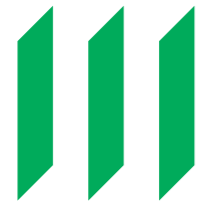
	<p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成: 金融知力普及協会)</p>		<p>■ もっと知りたい税のこと (令和3年6月) (作成・寄贈: 財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/</p>
	<p>■ 今日から始められるかんたん不動産投資初めてのJリート (作成・寄贈: 不動産証券化協会) 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/</p>		<p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成・寄贈: 金融庁) 金融庁 Web サイト https://www.fsa.go.jp/</p>
	<p>■ マナブとメグミのお金のキホン BOOK (作成・寄贈: 全国銀行協会) 全国銀行協会 Web サイト https://www.zenginkyo.or.jp/</p>		<p>■ 10代から学ぶパーソナルファイナンス (作成・寄贈: 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>
	<p>■ 明るい未来へ TRY! ~リスクと備え~ (作成・寄贈: 日本損害保険協会) 日本損害保険協会 Web サイト http://www.sonpo.or.jp/</p>		<p>■ わかりやすい投資信託ガイド 2021年版 (作成・寄贈: 投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
	<p>■ これであなたもひとり立ち (作成・寄贈: 金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>		<p>■ わかりやすいリートガイド 2021年版 (作成・寄贈: 投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
	<p>■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成・寄贈: 金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>		<p>■ 前払式支払手段ご利用者のみなさまへ (作成・寄贈: 日本資金決済業協会) 日本資金決済業協会 Web サイト https://www.s-kessai.jp/</p>
	<p>■ 18歳までに学ぶ 契約の知恵 (作成・寄贈: 金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>		<p>■ ほけんのキホン (作成・寄贈: 生命保険文化センター) 生命保険文化センター Web サイト https://www.jili.or.jp/</p>
	<p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成・寄贈: 日本証券業協会) 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/</p>		<p>■ 進学にかかるお金と奨学金の話 (作成・寄贈: 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>
	<p>■ 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (作成・寄贈: 環境省) 21世紀金融行動原則 Web サイト https://www.pfa21.jp/</p>		<p>■ 少額短期保険ガイドブック (作成・寄贈: 日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会 Web サイト https://www.shougakutanki.jp</p>
	<p>■ 社会への扉 (作成・寄贈: 消費者庁) 消費者庁 Web サイト https://www.caa.go.jp</p>		





エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、各社様のご支援により成り立っています。
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

プラチナスポンサー



Manulife
マニユライフ生命

ゴールドスポンサー



Wiennomori Corporation



エム・シー通商株式会社

ブロンズスポンサー



ラッセル・インベストメント株式会社



ファイブスター投信投資顧問



Special Thanks (順不同)

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいたすべての皆様 (肩書は当時のもの)

マニユライフ生命保険株式会社
取締役代表執行役社長兼 CEO

ブノワ・メスレ様



マニユライフ生命保険株式会社
常務執行役員 CMSO

村山 彰子様



株式会社ウィーンの森
代表取締役

森 正文様



ファイブスター投信投資顧問株式会社
取締役運用部長兼
チーフ・ポートフォリオ・マネージャー

大木 将充様



株式会社グッドバンカー
取締役調査部長

倉橋 麻生様



TAC株式会社
ファイナンス講座企画部
部長

児玉 晋様



ラッセル・インベストメント株式会社
運用部 日本株運用
シニア・ポートフォリオ・マネージャー

箱崎 真紀子様



株式会社一休
執行役員
第二宿泊事業本部長

巻幡 隆之介様



エム・シー通商株式会社
本社営業部
課長

緒方 威一郎様



エム・シー通商株式会社
本社営業部
係長

鈴木 陽介様



エム・シー通商株式会社
本社営業部

中尾 悠良様



ヴォレアス北海道

越川 優様



Special Thanks



株式会社 QuizKnock
YouTuber

こうちゃん様



パソコン甲子園
会津大学
上級准教授

渡部 有隆様



キャリア甲子園
株式会社マイナビ 未来応援事業本部
学生の窓口事業部事業運営部
学生の窓口イベント課

鈴木 麻友様



認定 NPO 法人金融知力普及協会
上席研究員

水谷 昌弘



金融庁
総合政策局 総合政策課
金融知識普及係 課長補佐

上大谷 起一様



YouTube 甲子園
カンコーマナビネクスト株式会社
YouTube 甲子園事務局

平松 祐美様



和牛甲子園
全国農業協同組合連合会 (JA 全農)
畜産総合対策部 畜産販売課

富田 清光様



財務省
主税局 総務課兼調査課
企画官

和田 良隆様



商い甲子園
商い甲子園実行委員会
会長

松本 健様



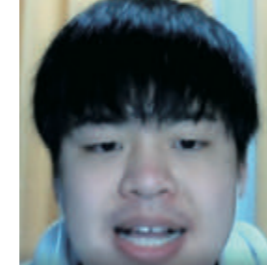
認定 NPO 法人金融知力普及協会
理事長

金子 昌資



熱血！高校生販売甲子園
高崎経済大学
「第14回 熱血！高校生販売甲子園」
実行委員会 実行委員長

加藤 雄也様



ニュース・博識甲子園
一般社団法人日本クイズ協会
代表理事
ニュース・博識甲子園シリーズ大会長

齊藤 喜徳様



認定 NPO 法人金融知力普及協会
理事

野中 ともよ



Special Thanks



金融知力普及協会をお支えいただいている各社

サンメッセ株式会社 SMBC 日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会
日本証券業協会 マニユライフ生命保険株式会社 三井住友 DS アセットマネジメント株式会社
三井不動産株式会社

問題監修

荻野 昭一 先生 (北海道大学 名誉教授)

金融知力普及協会 ボランティアスタッフ

安陪 玲音	関 優 介	白戸 玲寿	谷 尚 俊	脇田直樹	松田直晃
井上博裕	平 智 悦	高良厚公	中村徹舟	中川原杏奈	御手洗伸
入山七海	椿 丈	田村元希	森 愛 美	堀島正道	山田玲旺
岩田侑馬	野口晃平	坪田実那美	山口温大	山本桐也	山根有輝也
白井大貴	濱田美和	中島理乃	井関友洋	亀山尚輝	横山智紀
岡しづか	渡辺桃香	松岡知優	小菊聡一郎	神谷涼介	縄田寛希
越智向日葵	赤 井 遥	山口朔矢	鈴木悠希	北島拓哉	古谷和弥
後藤篤了	蟻川大智	鷲田樹音	高橋昂汰	木原健太郎	堀田瑤子
後藤一矢	磯部元政	池 田 怜	竹中颯太郎	齋藤賢太	
佐藤俊亮	梅木康多	越智耀亮	田島祐也	佐藤賢斗	
嶋 村 悠	奥田剛崇	籠尾健太郎	直江綾太郎	西川陽之	
城 正 人	尾崎巧基	笹山順平	橋場芽衣	濱元貴大	
白石凜花	國崎優佑	杉 原 諒	橋本信朗	宝蔵花穂	
菅原充希	小嶋美早紀	須永智也	村上将紀	宝蔵蓮也	

アドバイザー

クリエイティブ・ユークレイル・エイト 藤田 雄亮 様

司会

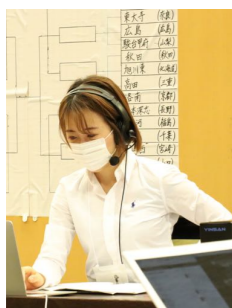
京極 雅美 様





第16回大会
スタッフリーダー
國崎優佑

第16回エコノミクス甲子園学生スタッフリーダーを務めました、國崎優佑です。
今年の全国大会も昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。オンラインでは、高校生の皆さんが一生懸命クイズに取り組む姿を直接見ることはできませんでしたが、大会に向けた熱意や意欲をととても感じさせられました。高校生にとっては、金融や経済の仕組みに触れる機会はあまりないことでしょう。私たちスタッフ一同は、そんな高校生に、金融経済の仕組みを知ってもらい、金融経済に少しでも興味を持ってもらいたいという思いで大会の運営を行ってきました。地方大会や全国大会での高校生へのインタビューで、「大会に向けて勉強したことで、経済の仕組みを知ることができた、興味をもつことができた」という感想をいくつも聞くことができ、非常に嬉しく感じています。
今年の全国大会では、全国各地の「〇〇甲子園」という名前のイベントとコラボし、各甲子園イベントに関連する問題を出題しました。エコノミクス甲子園とは全く性質の異なる「〇〇甲子園」のイベントからも、経済に関する問題を出すことで、すべての活動に経済が結びついているということを伝えることができれば、と思っています。
次回以降の全国大会では、対面で開催できることを願っています。また、エコノミクス甲子園は新たな挑戦をしながら、さらにより大会となるよう、スタッフ一同頑張っていきます。今後ともエコノミクス甲子園をよろしくお願いいたします。



第16回大会
サブリーダー
赤井遥

第16回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めました赤井遥と申します。まずは、本大会の運営に携わってくださった全ての方々に厚く御礼を申し上げます。
さて、15回大会に引き続きオンラインでの開催となり、高校生の顔を直接見ることが叶わなかったことは残念ではありますが、今年も無事成功と言える大会を作り上げることができたことに安心感、達成感を覚えると共に、宴が終わった後のような寂寥感を感じています。それほどまでに、エコノミクス甲子園を運営することに夢中になっていたことに今になって気づきました。
エコノミクス甲子園との最初の接点は高校一年生の頃、友人にその存在を覚えてもらった時でした。この大会との出会いは、その頃の自分には、想像もつかないほど大きな意味を持つものとなりました。普段の生活では得ることのできない学びを得ることができた高校時代、そしてかけがえのない仲間と時に悩みながら一つのものを作ろうと奔走した濃厚な大学生活はどちらも、エコノミクス甲子園が私にもたらしてくれたものです。そして、高校生から寄せられたたくさんの「楽しかった」という声の数々は、私にとって誰かを幸せにするこのやりがいを感じさせるものでした。高校生として大会に「参加する」側として得られたこと、そして今回スタッフとしてこの大会を「作る」側として得られたことは、私の人生にとって大きな財産であると言えます。

第17回大会は、第16回大会が終わりを迎えたその瞬間から始まっていると思います。様々な思いを秘めた高校生と、我々の対峙は既に始まっているのです。どうか、私にとってそうであったように、この大会が一人でも多くの高校生の人生をより良い方へ導くことを祈っています。



第16回大会
サブリーダー
松岡知優

第16回エコノミクス甲子園学生スタッフサブリーダーを務めました、松岡知優と申します。
まず、このような状況の中、無事に大会を終了できましたことを大変嬉しく思います。また、開催に際しましてたくさんのご支援を賜りました関係者の皆さま、大会に参加していただいた全国の高校生の皆さまに御礼を申し上げます。
さて第16回エコノミクス甲子園いかがだったでしょうか。今地方大会では有り難いことに2大会を対面で開催することができました。やはり顔を合わせて勝負しあう高校生の姿は何にも変えられないものだと思えて再認識すると共に、来年度こそ全ての地方大会と全国大会が対面で実現できることを祈っております。
全国大会では問読みを担当させていただきました。正解した時の安堵の表情、惜しい解答を悔やむ落胆の声、戦略を相談するときの真剣な空気... クイズとルールに対して真摯に向き合う高校生の姿を間近で拝見することができて感無量でございました。
この1年間、ルールを0から創ることに頭を抱え、何を学んでほしいのかを四苦八苦ししながら精査したクイズの数々は相当なものです。全国大会開催まで何度も議論を重ね、高校生に何を1番に伝えたいのか、追い求めた成果が今大会の全てだと思っております。第16回大会を共に創り上げてくれた学生スタッフに感謝の気持ちが尽きません。本当にありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

高校生の皆さま、今大会はシンプルなルールだったからこそ苦労したかもしれません。自分の予想よりも問題の難易度が高かったかもしれません。うまく戦略が進まず歯がゆい思いをした方もいらっしゃると思います。この世界は教科書だけで完結しないことがお分かりいただけたでしょうか。エコノミクス甲子園が経済の全てでもないのです。自分なりのアンテナで経済の面白さを見つけ、自分の世界を広げてください。エコノミクス甲子園がそのきっかけになったのならこれほど嬉しいものはありません。
「学び」と「楽しさ」を軸にしたこのエコノミクス甲子園が全ての高校生にとって経済への架け橋になりますように。さらなる発展を皆様にお届けできますよう、スタッフ一同精進して参ります。今後ともどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第17回大会
スタッフリーダー
濱田美和

この度、第17回エコノミクス甲子園学生スタッフリーダーに就任いたしました、濱田美和と申します。私は第13回、14回大会で岡山県大会代表として全国大会に出場しました。
私エコノミクス甲子園との出会いは高校一年生の時でした。過去に出場経験のある先輩から、大会の存在について教えてもらいました。
クイズ番組の解答者みたいに早押しボタンを押してみたい、全国大会に出て東京に行ってみたい、そんな軽い気持ちで応募したので覚えています。
早速届いた事前学習教材の内容はそれまで触れたことがないものばかりで、自分がいかに金融や経済に関する話題に対して無関心であったのかを自覚させられ、恥じました。「元本」を「げんぼん」と読み間違え、家族から笑われたこともありました(笑)。出場を決めた当初は分からないことだらけでしたが、クイズに正解したい、優勝してNYに行ってみよう、そんな思いで勉強するうちに、エコ甲に出る前の自分とは見違えるほど多くの知識を得られたように感じます。
16回大会は残念ながらオンラインとなってしまいましたが、参加した高校生の皆さんが、大会に出る前と後で「違う自分になった」「出場してよかった」という風を感じて頂けていたら幸いです。
17回大会では、今までエコノミクス甲子園が作り上げてきたものを受け継ぎながら、さらに高校生にとって有意義な大会を開催できるようにスタッフ一同精進したいと思います。第17回大会は高校生の皆さんの熱い戦いを間近で見られることを祈っております。



第17回大会
サブリーダー
安陪玲音

第17回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めます、安陪玲音です。
私は第14回大会に神奈川県大会代表として出場しました。この大会との出会いは突然、そして偶然でした。しかしそのちょっとした出合いが、自分の人生に金融知力という1つのエッセンスをもたらしてくれました。自分の金融知力はたかが知れたもので、武器と言えほどのものではありません。しかしニュースを通して昨今の情勢をちょっと理解したり、ちょっと考えたりすることが出来ます。自分の日々のお金の使い方や、将来の資産形成に向き合うことが出来ます。この大会に出会わなければ、そんな自分はいなかったように思います。
何事も知らない始まりません。知ったうえで、その知見を如何に使うかは次の問題です。使わなくても構いません。「知らなかったから使えない」と「知っているが使わない」とには大きな差があります。この大会は参加者の皆さんにとって、良い「知る機会」として存在します。そしてこの大会を通して知る「金融知力」はとても身近な存在です。世界情勢という高尚なものを理解するためだけのものではなく、日常生活の至るところに潜んでいます。上手く使えば、人生をより豊かにすることが出来ます。だからこそこの大会は、「如何に知ったことを使うか」というヒントまで提供します。ここに唯一解は存在しませんが、きっと人それぞれの正解があります。
多くの参加者は優勝を目標にこの大会に臨むことでしょう。私もその1人でした。しかし、この大会の真の意義はそこにはありません。優勝というゴールまでの道のりにあります。17回大会が1人でも多くの高校生にとって、かけがえのない人生の1ページとなるよう、そして生涯のエッセンスとなるよう、スタッフ一同尽力いたします。
会場で会いましょう。



第17回大会
サブリーダー
佐藤俊亮

この度、第17回エコノミクス甲子園、サブリーダーを務めます佐藤俊亮と申します。
私は2年前、14回大会に出場し全国大会の会場に足を踏み入れたあのときの場面を今でも鮮明に覚えています。しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2年連続で全国大会はオンライン開催、昨年は一部の地方大会ではオフライン開催でしたが、多くの地方大会でオンライン開催を余儀なくされました。出場する高校生たちがあの会場での雰囲気味わえない悔しさを心から痛感するとともに、今年こそは出場する多くの高校生の皆さんと顔を合わせて大会を開催できることを願っています。
我々が大会を運営している「エコノミクス甲子園」はただ知識量を競い合うだけの大会ではありません。これから先、大学や専門学校に進学するにあたってお金かかり、社会に出ると給与などといった形でお金をもらうことになり。お金と関わることなく生きていくことはできません。今後人生でうまくお金と関わることをできるよう、「金融知力」をこの大会で獲得していただくことが我々の願いです。
次回第17回エコノミクス甲子園に参加するすべての高校生が有意義となる大会を運営できるよう、スタッフ一同尽力させていただきますので今後ともよろしくお願いいたします。



エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第1回	2006	2007年2月18日	25	33	ラ・サール高等学校
第2回	2007	2008年1月13日	90	237	開成高等学校
第3回	2008	2009年1月25日	154	425	東大寺学園高等学校
第4回	2009	2010年1月10日	201	535	ラ・サール高等学校
第5回	2010	2011年2月12日	237	600	灘高等学校
第6回	2011	2012年1月22日	244	647	東大寺学園高等学校
第7回	2012	2013年2月17日	335	860	東海高等学校
第8回	2013	2014年2月2日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第9回	2014	2015年2月15日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第10回	2015	2016年2月28日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第11回	2016	2017年2月5日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校
第12回	2017	2018年2月18日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校
第13回	2018	2019年2月17日	473	1,250	福井県立藤島高等学校
第14回	2019	2020年2月9日	479	1,207	大阪府立北野高等学校
第15回	2020	2021年2月14日	388	880	千葉県立千葉高等学校
第16回	2021	2022年2月27日	316	686	栄東高等学校

エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧(第1回～第9回)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南
青森								青森	青森
岩手				水沢	盛岡第三				
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西
山形							山形東	山形南	山形東
福島		県立福島【東北】	県立福島【東京】			会津学鳳【関東】	県立福島	県立福島	福島高専
茨城							竹園	土浦第一	水戸第一
栃木							宇都宮【ネット】	矢板東	宇都宮
群馬							富岡	前橋	高崎女子
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東
千葉	県立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉	渋谷幕張
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀
新潟								国際情報	新潟明訓
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡
石川		金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢泉丘	金大附属
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島
山梨					甲府南【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南
長野								長野	諏訪清陵
岐阜					岐阜	岐阜	岐阜	岐阜東	岐阜
静岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉
愛知	南山女子【大阪】	滝	名大附属	名大附属	名大附属	旭丘	東海	東海	滝
三重						津	三重	川越	川越
滋賀									

【 】内は所在地以外の県で実施された予選(第1回)・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場

エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧(第1回～第9回)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
京都									洛北【ネット】
大阪	星光学院						清風南海	星光学院	開明
兵庫		灘【関西】		灘【関西】	灘【関西】	灘【関西】		関西学院【ネット】	
奈良			東大寺【大阪】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良C	智辯奈良C	智辯奈良C
和歌山									
鳥取								鳥取西	鳥取西
島根							松江北	浜田	松江商業
岡山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精思
広島						広大福山【中国】	修道	広島学院	修道
山口							宇部	宇部	宇部
徳島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立
香川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松
愛媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西
高知								高知学芸	高知小津
福岡			西南学院				修猷館	修猷館	筑紫丘
佐賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】				
長崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精道三川台
熊本						熊本【九州】			
大分									
宮崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西
鹿児島	ラ・サール【福岡】	ラ・サール【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【敗者復活】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸
沖縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科
海外									
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40

【 】内は所在地以外の県で実施された予選・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場

エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧(第10回～第16回)

回数	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	
開催年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
北海道	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	北見北斗	札幌南	旭川東	9年ぶり5回目
青森	青森	弘前	青森	弘前	弘前	青森	青森	2年連続6回目
岩手		盛岡中央	盛岡第三	一関第一	岩泉			
宮城	仙台二華	仙台第一	古川黎明	仙台第二	聖ウルスラ		仙台二華【ネット】	6年ぶり3回目
秋田	秋田	秋田	由利	秋田商業	秋田	秋田	秋田	3年連続6回目
山形	山形東	鶴岡南	山形南	山形南	寒河江			
福島	白河	県立福島	県立福島	県立福島	県立福島		白河	6年ぶり2回目
茨城	土浦第一	並木中等	土浦第一	並木中等 竹園【ネット】	江戸川取手	並木中等	並木中等	2年連続4回目
栃木	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	栃木	初出場
群馬	前橋	ぐんま国際アカデミー	四ツ葉学園	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	4年連続4回目
埼玉	栄東	浦和	栄東	県立川越	栄東	栄東	栄東	3年連続7回目
千葉	柏	東葛飾	渋谷幕張	渋谷幕張	渋谷幕張	県立千葉	市川	10年ぶり2回目
東京	早稲田	お茶の水女子大附属	早稲田	早稲田	都立武蔵	開成【ネット】		
神奈川	慶応義塾	聖光学院	栄光学園	湘南	慶應SFC	浅野	洗足	初出場
新潟	新潟	新潟	新潟明訓	新潟	新潟	新潟	新潟	4年連続6回目
富山	高岡	富山	富山	富山中部	富山	富山	高岡	6年ぶり6回目
石川	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	8年連続14回目
福井	高志	羽水	藤島	藤島	高志	高志	藤島	3年ぶり6回目
山梨	甲府南	甲陵	甲府南	甲府南	甲府南	駿台甲府	駿台甲府	2年連続2回目
長野	松本深志	松本深志	松本深志	松本深志	上田	松本秀峰	松本深志	3年ぶり5回目
岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	恵那	初出場
静岡	静岡	知徳*	知徳*	御殿場南	浜松学芸	浜松学芸	浜松学芸	3年連続3回目
愛知	滝	滝	東海	旭丘	東海	東海	名大附属	11年ぶり4回目
三重	宇治山田商業	四日市商業	伊勢	桜丘	暁	暁	高田	初出場
滋賀	水口東	膳所	県立守山	水口東	県立守山			

*静岡「知徳」は前校名「三島」



エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧(第10回～第16回)

回数	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	
開催年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
京都		洛北	洛南	洛北	洛北	洛北【ネット】	洛南	4年ぶり2回目
大阪	金蘭千里 星光学院 【10回記念】	星光学院	星光学院	星光学院	北野			
兵庫	灘	灘 甲陽学院 【ネット】	神戸女学院	灘	神戸女学院		灘【ネット】	3年ぶり8回目
奈良	東大寺	東大寺	東大寺	東大寺	青翔		東大寺	3年ぶり8回目
和歌山			智辯和歌山	智辯和歌山	近大和歌山			
鳥取	湯梨浜	青翔開智	湯梨浜	青翔開智	鳥取西			
島根	隠岐	情報科学	松江商業 横田 【ネット】	松江高专	松江高专			
岡山	倉敷精思	倉敷天城	倉敷精思	倉敷天城	倉敷天城	岡山白陵	岡山白陵	2年連続5回目
広島	広島学院 近大東広島 【ネット】	広大福山	安田女子	広島学院	広島学院	広島	広島	2年連続2回目
山口	下関西	下関西	大島商船	山口	宇部高专	山口	慶進	初出場
徳島	城東	徳島市立	徳島市立	城東	城東	城東	城東	4年連続6回目
香川	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	丸亀	高松西	初出場
愛媛	愛光	愛光	今治西	松山東雲	今治西	松山東	松山西	7年ぶり5回目
高知	土佐	高知学芸	高知学芸	土佐塾	土佐			
福岡	大牟田	修猷館	福工大城東	福岡	久留米大附	宗像	小倉商業	初出場
佐賀	致遠館	致遠館	弘学館	弘学館	早稲田佐賀	佐賀西	弘学館	3年ぶり3回目
長崎	精道三川台	長崎西	長崎西	精道三川台	青雲			
熊本		八代						
大分		安心院					大分東明【ネット】	初出場
宮崎	宮崎第一	宮崎第一	宮崎大宮	宮崎第一	日向学院	宮崎西	宮崎西	2年連続4回目
鹿児島	国分中央	鶴丸	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	5年連続11回目
沖縄	昭和薬科	昭和薬科	球陽	昭和薬科	昭和薬科 N高 【ネット】	昭和薬科	沖縄尚学	初出場
海外		甘泉【中国】	台湾師大附【台湾】					
出場校数	44	48	47	46	46	32	36	

■第1回



■第2回



■第3回



■第4回



■第5回



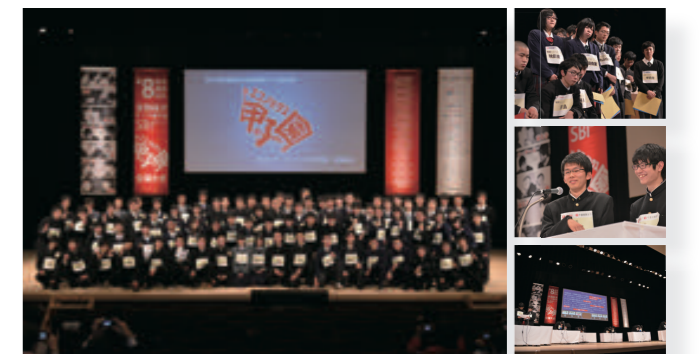
■第6回



■第7回



■第8回





■第9回



■第10回



■第11回



■第12回



■第13回



■第14回



■第15回



■第16回





後援

文部科学省 環境省 金融庁 消費者庁 金融広報中央委員会 国際金融公社

協賛



Manulife

マニユライフ生命



Wiennomori Corporation



エム・シー通商株式会社

